“経営に知恵と革新”

平成 30 年 11 月 1 日発行（隔月発行）Vol.743 号

マネジメント コンサルタント

Management Consultant

2018 年 11 月・12 月号

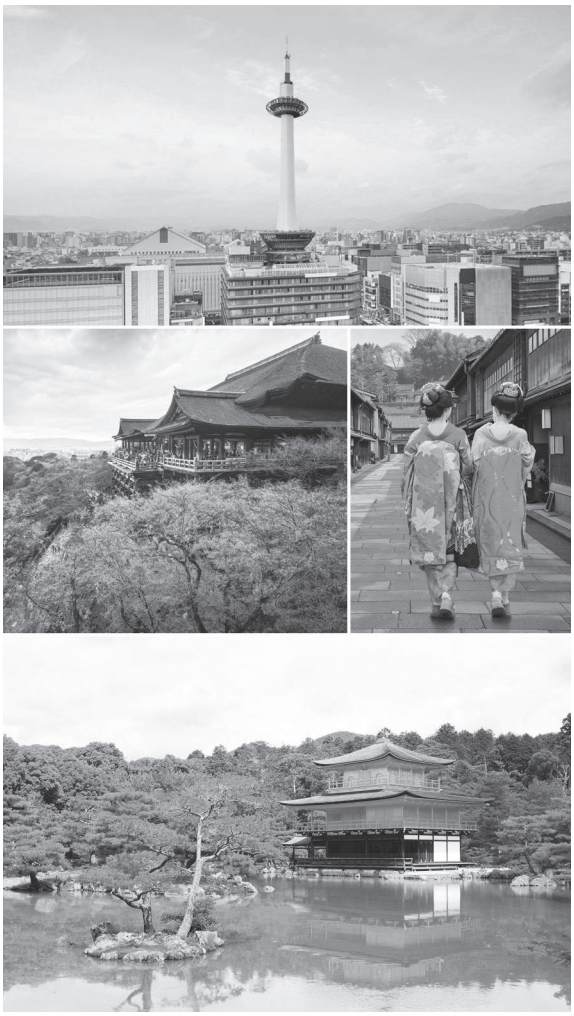
株式会社佐々木常夫
マネージメント・リサーチ
代表取締役 佐々木常夫

一般社団法人日本経営士会
会長 青木幸江

認定経営革新等支援機関
一般社団法人日本経営士会

68TH ANNIVERSARY

第53回
経営士全国研究会議
京都大会



一般社団法人日本経営士会創立68周年記念大会は、千年の歴史と伝統と文化の京都での開催です。包括テーマを『伝統と共創』とし、地域活性化と会員の皆様や地域の方々との交流を目的に、講演会・論文発表・懇親会などを行う予定です。
皆様のご参加を心よりお待ちしています。
全国研究会議の内容詳細につきましては、逐次会報誌等で情報発信致します。
どうぞご期待下さい。

日時：平成31年9月14日（土）～15日（日）
会場：京都タワーホテル・コンベンションホール
ＪＲ京都駅前（駅から徒歩２分）
住所：〒600-8216
京都市下京区烏丸通七条下る東塩小路町721-1

近畿支部そして実行委員一同、
皆様の参加をお待ちしております！

INDEX

「対談」佐々木常夫氏 × 青木幸江会長 ・・・・・・・・・2
第 52 回経営士全国研究会議仙台大会レポート ・・・・・・・・・8
第 52 回経営士全国研究会議仙台大会最優秀論文 ・・・・・・・・11
ビジネス・イノベーション・アワード 2018 ・・・・・・・・21
理事会通信 ・・・・・・・・23
経営支援事業部セミナーのご案内 ・・・・・・・・24
委員会活動
　環境ＣＳＲ事業部 ・・・・・・・・26
　ＭＰＰ委員会 ・・・・・・・・28
女性経営士の会 ＮＪＫ活動報告 ・・・・・・・・29
研究会通信　生産研究 ・・・・・・・・30
「寄稿」武術と健康に関する話 第９回 ・・・・・・・・32
「会員の輪」会員紹介 ・・・・・・・・34
会員広場　プロレスと経営 第 10 回 ・・・・・・・・35
支部活動報告
東北支部 ・・・・・・・・36
千葉支部 ・・・・・・・・37
北関東支部 ・・・・・・・・38
近畿支部 ・・・・・・・・40
四国支部 ・・・・・・・・41
支部活動予定 ・・・・・・・・43
インフォメーション / 広告 ・・・・・・・・44

マネジメントコンサルタント（Management Consultant）
発行所：一般社団法人日本経営士会

〒102-0084　東京都千代田区二番町12-12 B.D.A. 二番町ビル5F
Tel：03-3239-0691　Fax：03-3239-1831
http://www.keieishikai.com

表紙：佐々木常夫社長と青木幸江会長　/　撮影者：青木強志広報委員長

Copyright©2018 AMCJ. All Right Reserved. Design:Kenichi Aoki & ZENT Inc.

対談

佐々木常夫氏×青木幸江会長

■特別インタビュー：佐々木常夫様
（株式会社佐々木常夫マネージメント・リサーチ 代表取締役）

■インタビューアー：青木 幸江会長　山石 明宏広報委員

■写真撮影：青木 強志広報委員長

■記事編集：事務局

今回は、東レ株式会社取締役、株式会社東レ経営研究所社長を経て、現在は株式会社SMR（佐々木常夫マネージメント・リサーチ）代表取締役として、全国の企業、官公庁、教育関係などで多種多様の講演をされご活躍されています佐々木常夫先生との対談が9月3日（月）に渋谷の先生のオフィスで実現致しました。

佐々木先生は、自閉症のご子息とうつ病の奥様を抱えて、奥様は肝臓病を患い20年間に43回もの入院をされています。3人のお子様の育児、介護、家事、異動に追いかけられる状況の中でもご家族を守り抜き、破綻会社の再建やさまざまな事業革新に取り組み数々の大事業を成功させ、2001年には同期のトップで東レ取締役就任され2003年には東レ経営研究所社長に上りつめられました。

まさしく先生の著書のタイトル『ビッグツリー　～私は仕事も家族も決してあきらめない～』を長年実行されてこられました。

他にも『働く君に贈る25の言葉』『こんなリーダーになりたい』『部下を定時に帰す仕事術』など多くの著書があり、ビジネスマンはもちろん、全世代の読者に感銘・感動を与えています。

今回は、佐々木常夫先生ご自身のさまざまな実体験から働き方改革他、色々なお話を伺うことができました。

■佐々木常夫先生が考える働き方改革

青木会長：佐々木先生には、奇遇で2回お会いしています。1回目は水道橋のエポックという出版関係の女性達の会でお会いし、2回目は、先日7月に開催されました当会の中国支部の50周年記念事業でご一緒させていただきました。先生の色々なコラムを拝見していましたら、先生は、河出書房様と深い繋がりが有るのを知りました。私もそこの労務顧問をしておりましてご縁を感じております。本日は宜しくお願い致します。

佐々木社長：そうでしたか。私も千駄ヶ谷にある河出書房にはしょっちゅう行きましたよ。私の本の中で河出書房から出版しているものもあります。

青木会長：こうやってご縁が繋がるんだなぁと思います。先生のコラムはとても面白く拝見しています。本日は、お聞きしたいことがたくさんありますが、先ずは働き方改革についてお話しをお伺いしたいと思います。佐々木先生は、ある意味ご家庭の問題が有り、必然的に働き方改革をせざるを得なかったと思いますが、日本の企業は旗印を挙げているだけで実際は難しいところもあると思います。今後の働き方改革についての仕組みなど先生はどのようにお考えでしょうか。

（先生のオフィスでの対談の様子）

佐々木社長：どんな会社が良い会社か！今の時点と30歳台に思っていた定義が全く同じです。まず第一に社会に役立つ会社、お客様に喜んでもらえる会社。二つ目に社員が幸せな会社。三つ目に利益を上げる会社です。三つが有ればいい会社だと思います。三つどれも大事ですが、生き生きと会社が利益を上げられるかは社員に係っています。社員を幸せにするのは経営者の務めです。企業のミッションでもあります。それは、何十年前もこれからも全く同じ事です。社員を生き生きと働かせようとしたら、社員の生産性を上げ、環境を整えることです。ただ、ほとんどの会社では、ワークライフバランスとか言っているだけで、具体的にどうやるかを提示していないですし、自分が出来なかったら社員に議論させてもいいと思いますがそれもやっていません。働き方改革をやるとしても、ただ周りで起こっている合唱だけで本物になっていないのが実情です。

青木会長：そうですね。先生のプロフィールを拝見しますと、取締役になられ自分の仕事はご自身で管理出来たということですが、一方で山石さんは、シングルファーザーで会社を辞めてしまったのですよね。

山石委員：はいそうです。当時は働き方改革などもなく、私の場合は会社を辞めて起業しました。IT系ベンチャーで、朝早く出かけ終電まで働いていましたので子育てが出来なかった事と、自分で自分の時間を作る為に辞めました。

佐々木社長：山石さんの場合は、朝から晩まで仕事の絶対量が多かったということと、子供さんの面倒を見る時間がなかったということですね。私は普通の企業にいましたからね。大企業でしたが私のような会社の類で、やりようによってですが、残業しなければいけない仕事は、さほどありません。

青木会長：えっ、そうなんですか！

佐々木社長：私が30代後半に課長になった時、30時間から100時間以上やっていた残業を、このような方法で生産性を上げて残業を減らし結果を出します。と上司に宣言したんです。職場でワーク・ライフ・マネジメントのカギを握るのは、チームの運営について大きな裁量が与えられた課長です。課員に対して、効率良くして生産性を上げる仕事のやり方を指示できる訳です。

（説得力のあるお話しが続きます）

私は若い頃からそのことを考えていました。若い頃は、上司に言えば生意気な！と言えないでいたことをノートに書き記していました。それを課長になった時に実行したのです。

長時間の残業が当たり前だった職場の文化を変えるために、部下には計画的に仕事を進める「戦略的仕事術」の実践を求めました。過去の業務を分析すると、一体何のためにこんな時間をかけているのかと考えてしまう業務がたくさんありました。課長の指示が曖昧で部下が「この仕事は重要だ」と思い込んだためです。そして、仕事を計画的に進めるためにすべての仕事には締切を決めて、仕事の優先順位も決めました。仕事は計画、効率、時間の3つが大切です。

その結果2ヶ月過ぎると残業は3割減りました。また次の2ヶ月でまた半分になり、結局残業はゼロにはなりませんでしたが数時間になりました。上司には、その都度、成果を報告しました。上司は結果を出してくれればいい訳です。「残業はしません。」と宣言していましたので他の仕事が回ってこないんですね。他の課は残業していても私の課は毎日残業なしで早く帰りました。

3年もやっていると社内中有名になって、しまいには上司が私に言ったことが、隣とその隣の課の残業が多いので一緒にして面倒を見てくれ。と言われました。そして隣の課も一つにして結果、残業を大幅に削減しました。しかし、私が東京に異動し転勤しましたら、また元の3つの課に戻っていました。

■佐々木常夫先生の生き方・人生観

青木会長：すごいことですね。しかし、ご年齢からいくと、家庭の事を会社に持ち込む事は勇気がいりますよね。

私の周りでも介護や看病で、現実ご自身が鬱になって会社を辞めていくケースをよくお聞きします。

佐々木社長：私には子供があり、そして家内は病気でしたので、上司は認めざるを得ない訳ですよ。毎日6時に帰りました。それは、やはり状況を説明し納得をしてもらわなければいけません。

アドラーの話に、『すべての悩みは対人関係にある』『縦より横で生きなさい』とあります。アドラーの心理学の一言で言えば人はいつでも変われる。いつでも幸せになれるんです。それをしないのは自分の悩みを誰にも打ち明けない。それで内に

こもって鬱になる。そういう時は一歩出て、「困っているんです。協力して下さい。」と声を上げれば人間は皆優しいですから、頑張っている人には皆協力しますよ。そうしたら楽になって幸せになれるんです。やらないから苦しいんですよ。

青木会長：そうですね。ただ中々皆さん、そうなれないですね。

佐々木社長：なぜアドラーの本が180万部も売れているか！それは、皆さんが共感しているからですよ。今どき180万部も売れている本はないですからね。

青木会長：先生のご本も売れていますよね。（笑い）

佐々木社長：私は30冊以上出していますが全部合わせて170万部です。

皆：ワーすごいですね。

青木会長：ところで先生が色々な逆境、困難にあっても常に前に前に進み生きてこられた原動力はどこから出てくるんでしょうか。

佐々木社長：相当強い自己愛だと思います。自分が幸せになりたいという願望が強いんです。誰よりも一番に幸せになりたい！それには仕事で成功しなければいけません。そして家族仲良くしなければいけません。家族に何か起こったら全力で立ち向かいます。病気の家内を大切にして、障害の息子を認め、健常の子供たちにもベストを尽くします。家族を大事にしていると、子供たちから信頼されます。そのため私と子供達との会話は普通の家庭では考えられないほど濃密です。そして子供は私のことを本当に大切にしてくれます。
一方、会社の仕事で成功しようと思ったら、人に信頼されないといけないです。お客様に信頼されなければいけません。あの人がいてこその東レだと言われなければいけません。そして部下が喜んでくれる事を考えます。結局たどりついたことは、自分が幸せになろうと思ったら、周囲の他の人を幸せにするということです。それには相当頑張らなければいけません。私には幸せになりたいというターゲットがあります。人間はちょっとしたターゲットが有るとそこまで到達しようと努力します。

青木会長：ターゲットと言いますと。

佐々木社長：私の場合は、幸せになりたい。成功したい。ということです。
どうせ私なんか・・どうせ私は学歴ないんだし能力がないんだし・・どうせ人間関係能力もないし・・。「どうせ」と言った瞬間、人間は努力をしません。高い目標がある人はそこまで到達する努力しますから伸びますよね。また野心がある人も伸びます。そして頑張れば結果はついてきます。
私が幸せになりたい。そして何の為に働くかというのは、結局誰かに貢献する為と、自分を成長させるためです。

■上司と部下の関係性

青木会長：部下との関係性はどうですか。怒ることはありますか。

佐々木社長：怒りますよ。こんな失敗しやがってと時々、本気で怒ります。しかし私は部下を育成したい。成長させたいと思っていますからその思いは部下に伝わり、部下は自分の事を本当に思って叱ってくれているのが分るので離れていきませんよ。

青木会長：伝わらない人はいませんか？

佐々木社長：ほとんど伝わりますよ。自分の事を好きか嫌いか人間は敏感です。上司が自分のパワハラの為に怒っているのか、本当に自分の成長を思って言ってくれていることなのか言葉の使い方とかではなく部下はちゃんとわかっています。

青木会長：嫌いなのも伝わるわけですね。

佐々木社長：伝わります。何人かに1人はそういう人もいます。自分の周り全員と上手くいくことなんかあり得ない事です。分ってくれない人もいます。そういう人とは付き合わない方がいいです。
私は中坊幸平さんの言葉が好きなんです。『部下との付き合い方　管理職の有り方』に「正面の理」・「側面の情」・「背面の恐怖」という言葉があります。
普通はちゃんと前を見て解きなさい。時々は情けをかけて親身にしなさい。そして時々は切るぞ!! と飛ばすか、減給するか、昇給させないか厳しくやる。罰を与えなさい。それをやらないと人間は怠惰で、あの上司は優しくて何もやらないと思われてなめられてしまいます。刀を抜いて背面の恐怖を知らせめなければいけないのです。

青木会長：前から恐怖を与えてしまいそうです。（笑い）背面からの方が怖いですよね。

佐々木社長：毎回刀を抜いてはパワハラになりますが、5人に1人ぐらいは抜いて、部下には、あの人は怖いと思わせないといけないんですよ。

青木会長：先生のおっしゃることはごもっともですが本当に人間は大変ですね。

■家族愛・人間愛

青木会長：身内で喧嘩はしませんか？

佐々木社長：派手にやったらいいですよ。私は我慢する方ですが、ブチ切れることもたまにはあります。ただ心の真ん中にあるものがしっかりしていれば大丈夫なものです。
最近は実の親子だって一緒に暮らさない人が出ています。オープンにして認めれば、３世帯でも4世帯でも一緒に暮らせます。

青木会長：今度お家を立てられ大家族で暮らされるとお聞きしました。

佐々木社長：目黒の高台に大きな家を建てていまして、そろそろ出来上がります。富士山も見れて見晴らしが素晴らしいです。3階建の、3階には、娘夫婦と、娘の義理の両親、1階には私と長男の三所帯が住みます。2階にはリビングとダイニングがあり、義理の父が車椅子生活なのでバリアーフリーにして、エレベーターも付けました。広い家なので1階と2階には知合いの家族にレンタルしますので、全部で五所帯が一緒に住みます。そして五所帯皆で晩御飯を食べる予定です。

青木会長：素晴らしいですね。お食事は誰が作るのですか。

佐々木社長：娘が大好きなものですから。何人分作るのも一緒だからと言っています。

青木会長：にぎやかですね。最高に幸せですね。

佐々木社長：多少の欠点は認めあって少しずつ我慢すればいいのです。生活費は安く上がるし、そんなに幸せなことを皆どうしてやらないのか不思議です。子供はそれぞれの道を歩んで成功しています。家内もうつ病でしたが今は元気で生活しています。苦しくつらい時期もありましたが今は、本当に幸せですね。

青木会長：最後の質問になりますが、色々なご経験を経て、先生のように生き生きと楽しく生きる方法を教えて下さい。

佐々木社長：ちょっとだけ無理をすることです。自分が幸せになるには少し我慢しなければなりません。少し努力して自分を高めることです。そうやれば結果が付いてきます。その結果を噛みしめることです。そして体に、生き方に溶け込ませなければいけません。突き詰めて考えてみますと、自己愛が有るにしても無いにしても人間は世の為、人の為に貢献するんだということをベースにして自分を高めていくと、皆が幸せになれる。そしてひいては自分も幸せになれる。頑張る！という気持ちを持っていたほうが幸せになる。皆と仲良くやることは本当に気持ちが良いことです。

（佐々木社長と愛犬、青木会長）

青木会長：よくわかりました。佐々木先生の今後増々のご活躍を楽しみにしています。本日はお忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。

佐々木社長：こちらこそありがとうございました。

第52回 経営士全国研究会議 仙台大会レポート

2018年10月6・7日、「不測の事態に対する中小企業のリスク戦略」を包括テーマとした、『第52回 経営士全国研究会議　仙台大会』が仙台サンプラザホールにて開催されました。

初日は、台風上陸や交通機関のトラブルといった心配ごと、まさにリスクが発生するなどし、普段からのリスクマネジメントの重要性を改めて認識させられる機会ともなりました。

ご来賓として、経済産業省　東北経済産業局長　相樂希美様、宮城県経済商工観光部長　吉田祐幸様、仙台市長　郡和子様をお迎えし、全国各地・台湾から合計約150名という多数のご参加をいただき、盛会のうちに終了できましたこと、実行委員会及び東北支部より厚く御礼申し上げます。

（山下東北支部長）

（青木幸江会長挨拶）

（相樂希美様）

（吉田祐幸様）

（郡和子様）

開会式及び式典は、大会実行委員長の山下東北支部長の開会宣言。青木会長による主催者挨拶。続いて、ご公務の中ご出席を賜りました来賓の方々よりご祝辞をいただきました。

その後、「ビジネス・イノベーション・アワード」の表彰式を開催し、素晴らしい取組みをしている各企業の代表者のコメントを聴いた会場からは、大きな拍手があがっていました。

【ビジネス イノベーション アワード2018　受賞企業の皆様】（企業・団体名順不同）

〈会長賞〉	株式会社山形屋商店
〈ソーシャルビジネス奨励賞〉	株式会社アップルファーム
〈地域貢献奨励賞〉	株式会社大風印刷
〈経営革新奨励賞〉	甲信食糧株式会社
〈歯科医療業界働き方改革賞〉	株式会社デンタルタイアップ
〈働き方改革奨励賞〉	株式会社名晃
〈環境CSR奨励賞〉	プリンス電機株式会社
〈技術開発奨励賞〉	株式会社富士精工
〈ニュースタイル・ビジネス奨励賞〉	株式会社Mogee

（表彰状授与）

（受賞企業の皆様と記念撮影）

基調講演は、
「中小企業のリスク・マネジメント」
～東日本大震災の経験も踏まえて～
と題し、
学校法人至善館 理事 副学長の大滝精一様
（前　東北大学大学院経済学研究科教授）より
中小企業各社の取組みを具体的に紹介しながら「石橋をたたいて渡らないようなリスク・マネジメントに価値は無い！」、「危機の“機”はチャンスの意味もある」といった内容の、お話をいただきました。

（大滝精一様）

（交流懇親会場の設営の間、別室にて仙台名物「すずめ踊り」等のアトラクションを披露しました。）

懇親会では、

はじめに、
長年にわたり会の活動に貢献された会員、並びに事業活動等により会の活性化に貢献された会員の表彰を行いました。

（会員表彰の皆様）

つづいて、
全国研究会議の多数回出席者の表彰

MPP高単位取得者の表彰を行いました。

乾杯の発声は、実行副委員長で東北支部顧問の深田一弥様

東北各地の美味しい地酒も用意されました。

『乾杯！』

お楽しみ抽選会や地元高校生による合唱の披露などもあり、皆さまに楽しんでいただきました。

（主管の交代式
東北支部から近畿支部へ）

2日目は、優秀賞を受賞された千葉支部の児玉充晴会員、東京支部の大宮政男会員と、最優秀賞を受賞された南関東支部の髙橋栄一会員より、論文発表がありました。

最後に、佐藤光子副会長より次の内容の閉会宣言があり、二日間にわたる第52回　経営士全国研究会議仙台大会を終了しました。

「今回東北支部は、経験豊富な会員の後押しと、若手会員の力強い行動力で、それぞれの力を出し合いました。
年代を超えての一致協力です。
まさに日本経営士会の姿であります。この東北より、さらに全国へつないでいきましょう」

（東北支部長　山下 健二 記）

第52回経営士全国研究会議仙台大会
最優秀論文

地域市民の防災訓練参加者の増員を実現する
― ワークショップで地域の課題を解決する ―

高橋　栄一（南関東支部　神奈川県会）

（論文要旨）

昨今の度重なる水害、地震などの大規模災害に対し、筆者が会長を務める大根地区自治会連合会（以下「大根自治連」と称する）は、市民の防災意識を高め、共助の絆を強化することが役割の一つと思っている。大根自治連は、地域内にある福祉施設やスーパー銭湯などと防災協定の締結を進めてきた。ところが大根自治連は自治会加入率が低く、高齢化比率が高いことから共助が低いという課題を抱えている。平成25年1月に秦野市から大根自治連に対して総合防災訓練の実施主体の当番の通知があり、この機会を捉えて市民に防災意識の高揚と共助の強化するために「防災訓練に多くの地域市民に多く参加してもらう」とう命題を掲げ、その解決にビジネスの手法、「ワークショップ」（以下「意見交換会」と称する）、SWOT分析やPDCA、連携を採用することにした。そして、共助の補強として地元にある東海大学と連携して、大学が保有する先生の知見や学生の若い力、施設など）の活用にトライした。当論文は地域の課題を市民が自から解決する方法として、「意見交換会」の有効性を研究するものである。

（本文）

◇「緒言」

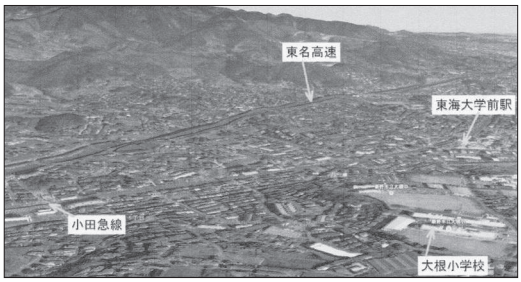
平成23年3月11日14時46分東北大震災の発生した時、筆者は東京都稲城市にある企業と商談中であった。突然、応接室が強く揺れ、段ボールが二階から一階に転げ落ちて行った。この日、人生で初めて帰宅難民になった。電話は不通に、スーパーの食料品は棚からなくなった。筆者は大根自治連の会長に就任していたが、地域での活動は何もできなかったことから、防災体制の強化の必要性を痛感した。

このような時期に秦野市より「平成26年8月31日に秦野市総合防災訓練の中央会場の当番なってほしい」との要請があり、この機会を捉えて大根自治連として「地域市民の防災意識を高める」と考えた。丁度その時に大根自治連の地元にある東海大学から「文部科学省の地域連携事業を受託したので、『安心・安全まちづくり計画』で連携したい」との申入れがあり承諾した。大根自治連としては自治会の加入率が秦野市で一番低いことから災害が発生した場合に市民の近所との絆が薄いことや高齢者が多いことから「東海大学の若い人の力を借りたい」との狙いがあった。筆者は、市民が高齢化し、またご近所との絆が希薄になってきている状況にあり、共助の強化が必要であると感じていた。共助とは、地域や近所の人などがお互いに協力し合うことである。

そのためにはまず多くの市民に防災訓練に参加してもらって防災意識を高めると同時に東海大学、秦野高校、大根中学校、地区諸団体の連携することが重要と考えた。この地域の課題を市民が自から解決する方法として、ビジネス手法の「意見交換会」などを活用することにした。

◇「研究・調査方法」

1. 大根地区自治会連合会の概要



(1)加入世帯数　6,974世帯、20,922名
（自治会加入率43%）

(2)自治会数　23自治会

(3)位置　秦野市の北東部

(4)産業　農林業はわずかで第三次産業中心である。

(5)特徴

①戦後東京・川崎・横浜のベットダウンとして開発された団地が多くある。

②東海大学湘南校舎があり、また県立秦野高校もある。

③地形は起伏に富むが、大山や丹沢山に覆われて比較的温暖である。

④東名高速道路と小田急線、水無川が横断している。

(6)強み

強みが沢山あることがわかったが、①についてはその強みを認識できていないことが分かった。

①東海大学（学生数20,000名、在住者7,000名）、県立秦野高校（生徒数1,100名）、大根中学校（生徒数360名）という若い力がある

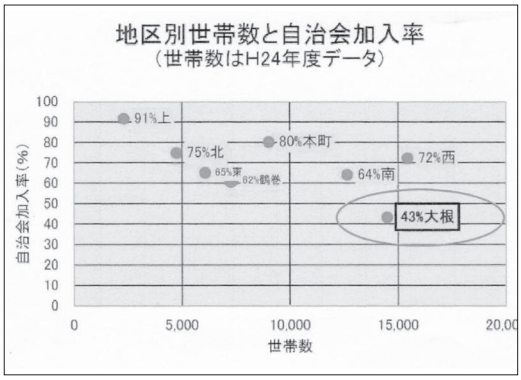
②公的大規模福祉施設は弘済学園、精華園、湘南老人ホームの3ヶ所がある。

③大規模総合病院として東海大学付属病院、国立神奈川病院、赤十字秦野病院、伊勢原協同病院、東海大学付属大磯病院がある。

④広域スーパーが6ヶ所、地域2ヶ所ある。

2. 大災害が発生した場合の課題

課題として下記が掲げられる。



(1)自治会加入率が43%と極端に低い。

神奈川県平均加入率75.7%（平成20年度、公益財団法人神奈川県市町村振興協会調査）最低のレベルにある。

(2)高齢化比率が31.4%と秦野市の平均26.3%より一番高い上に、高齢化比率40%以上の自治会が、5地区ある。戦後いち早く建設された団地の入居者が高齢化してきている。

(3)災害時の一次広域避難所が、3ヶ所とも当地区の一番の高台にあり、移動が困難である。

3. 総合防災訓練参加目標の設定

秦野市総合防災訓練参加者を2,000人に設定した。

中央会場として8年前の参加者は470名（1ヶ所）との記録があったが、どのように集客したかの資料はなかった。参加目標は自治会長に説得しやすいように前年に実施された単位自治会防災訓練の参加者の同数で設定した。また訓練会場は広域避難所を知ってもらうために3ヶ所で開催することにした。

4. 防災訓練参加目標達成するためのアクションプラン

大根自治連役員会で下記の取りアクションプランを決定し、毎月自大根自治役員会や委員会で進度の検討を行なってPDCAを回した。

取り組み事項	目標	担当者	2	3	4	5	6	7	8
1. 地域リーダー養成講座	23 名	自治連	講師選		開催				
意見交換会メンバーの選出と案内	80 名	委員会		参加先決定	参加依頼				
東海大学との連携による大学資源の活用	交流関係の構築	自治連委員会	随時						
案内ポスターとチラシの作成と配布 （1）市政懇 （2）総合防災訓練	1200 枚 1200 枚	自治連 自治連 委員会				告知	告知		
タウンニュース社の活用（防災訓練の取り組みを市民に紹介する）	3 回以上	自治連委員会							
意見交換会	2 回	委員会				第 1 回	第 2 回	報告	
みんなでつくろう講演会（市政懇談会）	200 名	自治連				告知		開催	
総合防災訓練メニューの決定と準備・周知	随時	委員会							
総合防災訓練	2000 名	自治連・委員会				企画内容説明		訓練内容確認	8/31 実施

4-1. 防災訓練推進委員会の設置

(1)委員　自治会長経験者、秦野市防災課、秦野市防災相談員、東海大学教授を加え9名で編成した。

(2)役割

①意見交換会の開催企画と推進

②総合防災訓練実施の事務局など

(3)開催時期・場所　委員長に一任した。

4-2. 東海大学との連携

東海大学から文部科学省の地域連携で採択されたTo-Collaboプログラムの大学推進プロジェクトである「地域デザイン計画　安心安全事業」への連携の申入れを受け入れ、東海大学の知見、施設の利用、教授・学生との交流を図ることにした。

4-3.「意見交換会」の開催

(1)意見交換会とは

参加市民が地域の課題、今回の場合は「総合防災訓練にいかに多くの市民に参加してもらうために自分たちは何ができるか」という視点で話し合ってもらう必要がある。

そこで、課題の解決にどのような手法が良いかを秦野市や東海大学の先生のアドバイス、そして東北工芸大学・山崎亮先生の著書を参考にワークショップを採用することにした。

「ワークショップとは」は東京工業大学の中野民夫教授は「講義など一方的な知識伝達のスタイルではなく、参加者が自ら参加し、体験して、共同で何かを学び合ったり、創り出したりする、学びと創造のスタイルと定義されている。この手法は参加者が肩書もなく、縄張りもなく、非難もなく自由に話し合うことができる。

最近ではまちづくり分野において、地域にかかわるさまざまな立場の人々が自ら参加して、地域社会の課題を解決するための改善計画を立てたり、進めていく住民参加型の活動形態の一つとなっている。筆者も秦野市総合計画の作成に参加し、有効な手法として体験している。大根自治連ではヨコ文字だと市民からの拒否反応が出る恐れがあることから「意見交換会」というネーミングをつけた。

(2)意見交換会の進め方

①リーダーの養成

外部専門家を招き、自治会長を対象に意見交換会のリーダー養成講座を開催した。

②意見交換会の参加メンバー

意見交換会には地域を支えている諸団体の代表80名を選出した。

メンバーは自治会を中心に、秦野市役所企画課・防災課、民生委員、消防団、青少年相談員・指導員、長寿会、子ども会、防災相談員、東大ICT研究企業グループ、東海大学(学生)、高校(生徒)、中学校(生徒)、小学校(教員)とした。

③班編成

一班10名前後として7班に分け、自治会長と諸団体代表がそれぞれの班に参加してもらった。

④所要時間　180分

⑤事前準備品

付箋(ポストイット)マジックインキ(赤色・黒色)、課題を記載した模造紙、参加者ネームプレート

⑥テーブル

当施設には折り畳み式会議用長テーブルがあることから、3本を一斑として使用し、10名が座れるようにした。

⑦当日の進行

プロのファシリテーターに進行をお願いする。

ア．開催の趣旨説明

イ．参加者自己紹介

ウ．参加者から課題毎に解決策を付箋で提出してもらう。

エ．課題毎の解決策をまとめて討議する。

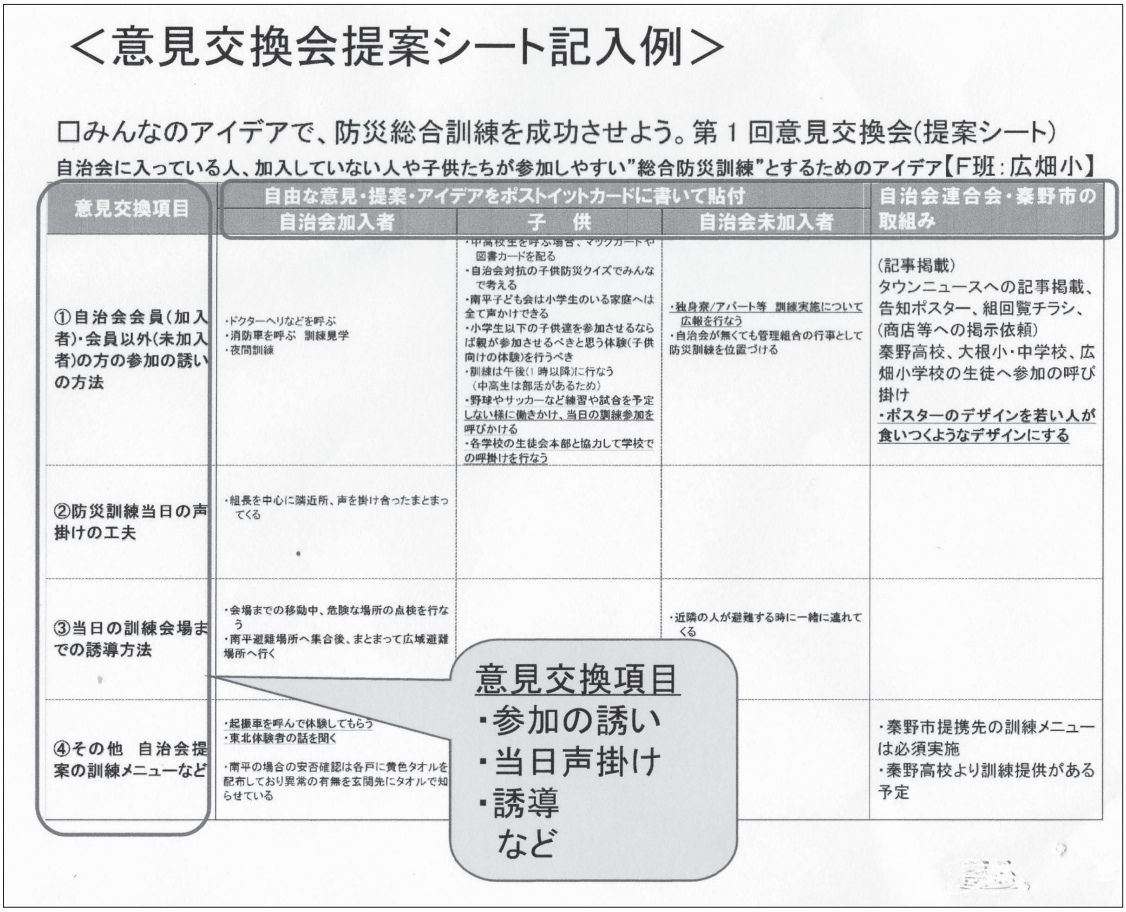
オ．解決策を自分達でできることと秦野市などにお願いすることにわける。

カ．まとめを発表する。

(3) 第1回意見交換会

①討議テーマ

意見が横道に反れないように、あらかじめ意見交換の項目を模造紙に書き込み、「参加の誘い、当日の声掛け、誘導、訓練メニューなど」について意見を出してもらうことにした。参加者全員から意見が出やすく、また仕切り屋による混乱が発生しないように付箋で提出してもらい、討議を行った。



＜意見交換会提案シート記入例＞

□みんなのアイデアで、防災総合訓練を成功させよう。第１回意見交換会(提案シート)

自治会に入っている人、加入していない人や子供たちが参加しやすい"総合防災訓練"とするためのアイデア【F班：広畑小】

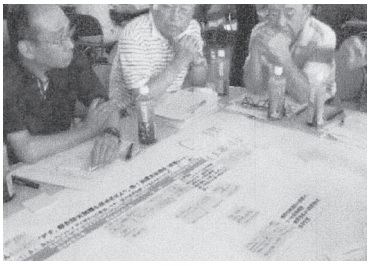
意見交換項目	自由な意見・提案・アイデアをポストイットカードに書いて貼付			自治会連合会・秦野市の取組み
	自治会加入者	子　供	自治会未加入者	
①自治会会員(加入者)・会員以外(未加入者)の方の参加の誘いの方法	・ドクターヘリなどを呼ぶ ・消防車を呼ぶ　訓練見学 ・夜間訓練	・中高校生を呼ぶ場合、マツクカードや図書カードを配る ・自治会対抗の子供防災クイズでみんなで考える ・南平子ども会は小学生のいる家庭へは全て声かけできる ・小学生以下の子供達を参加させるならば親が参加させるべきと思う体験(子供向けの体験)を行うべき ・訓練は午後(1 時以降)に行なう (中高生は部活があるため) ・野球やサッカーなど練習や試合を予定しない様に働きかけ、当日の訓練参加を呼びかける ・各学校の生徒会本部と協力して学校での呼掛けを行なう	・独身寮/アパート等　訓練実施について広報を行なう ・自治会が無くても管理組合の行事として防災訓練を位置づける	(記事掲載) タウンニュースへの記事掲載、告知ポスター、組回覧チラシ、(商店等への掲示依頼) 秦野高校、大根小・中学校、広畑小学校の生徒へ参加の呼び掛け ・ポスターのデザインを若い人が食いつくようなデザインにする
②防災訓練当日の声掛けの工夫	・組長を中心に隣近所、声を掛け合ったまとまってくる			
③当日の訓練会場までの誘導方法	・会場までの移動中、危険な場所の点検を行なう ・南平避難場所へ集合後、まとまって広域避難場所へ行く		・近隣の人が避難する時に一緒に連れてくる	
④その他　自治会提案の訓練メニューなど	・起振車を呼んで体験してもらう ・東北体験者の話を聞く ・南平の場合の安否確認は各戸に黄色タオルを配布しており異常の有無を玄関先にタオルで知らせている			・秦野市提携先の訓練メニューは必須実施 ・秦野高校より訓練提供がある予定

意見交換項目
・参加の誘い
・当日声掛け
・誘導
など

②討議結果

自治会長は本日提出された意見・提案を持ち帰って、単位自治会で話し合ってもらうことにした。また秦野市への提案は第2回意見交換会に回答してもらうことになった。

当日参加の大根中学生から「自治会が防災に真剣に取り組んでいることを初めて知った」、また自治会長からは「思いもよらない意見が聞けて参考になった」などの感想があった。



(4) 第2回意見交換会

①第2回は1ヶ月後に開催した。自治会長は第1回意見交換会で出された意見を持ち帰って、自治会内で検討した結果を発表してもらったが、自治会長取り組みの決意を表明する場になり、予想外の効果となった。

ア. 自治会長からは「バスを用意して参加してもらう」、「参加者には記念品を出す」、「のぼり旗を作成する」、「ゴミステーションにポスターを貼る。

イ. 大根中学校生徒会代表から「部活動として防災訓練に参加します」。

ウ. 大根小学校・広畑小学校の校長から「防災絵画を夏休みの宿題にし、作品を当日体育館に掲示します」。

エ. 秦野高校生徒会代表から「野球部が運営にお手伝いします」など。

②秦野市への要望・提案事項に対する回答

下記の通り回答があり、日頃解決できない課題が参加者の話し合によって解決できた。

NO	要望・提案事項
1	市長の激励あいさつを広畑小学校と大根小学校、大根中学校でも行ってもらう。
2	秦野高校への協力を依頼してほしい（1）体育館の利用（2）生徒さんに防災クイズの手伝い（3）搬送訓練での実技のお手伝い。
3	防災クイズを大根小学校と広畑小学校で行う。
4	参加者への給水は秦野市からペットボトル１本を支給してもらう
5	広域避難場所参加者の受付は、自治会長が把握する。参加者の属性の区分を決める。
6	公民館や広畑プラザの利用を訓練当日の午前中は利用を中止する。
7	訓練当日、防災放送や学校安全メールで告知してもらう。
8	中学校、小学校から生徒に防災訓練の参加を呼び掛けてもらう。
9	消防車を展示してもらう。
10	当日訓練参加小学生に参加賞を出す。
11	市より小学生に事前に防災訓練を行ってもらう。

4-4. 市民への参加呼びかけ

(1) 市政懇談会の場を活用する

例年7月に市長を招いて開催する市政懇談会は、今回は「みんなで作ろう！安全安心なまち大根地区市民の集い」をキャッチフレーズに、ロッキード事件を担当された元検事の堀田力氏に「みんなの地域をみんなでつくろう」と題して講演をお願いし、共助の大切さをお話していただいた。また大根自治連防災委員会から意見交換会の活動状況を報告して市民の防災訓練への参加意識を高めた。

土曜日の午後の開催にもかかわらず参加目標200名に対して180名の参加があり過去最多であった。

(2) 地元のマチコミ紙「タウンニュース」への掲載

（一社）日本経営士会ビジネス・イノベーション・アワード大賞を受賞された静岡産業大学前学長の大坪檀氏は「地元紙に活動状況を取り上げてもらい、市民に知ってもらうことが大切だ」とご教授いただいた。

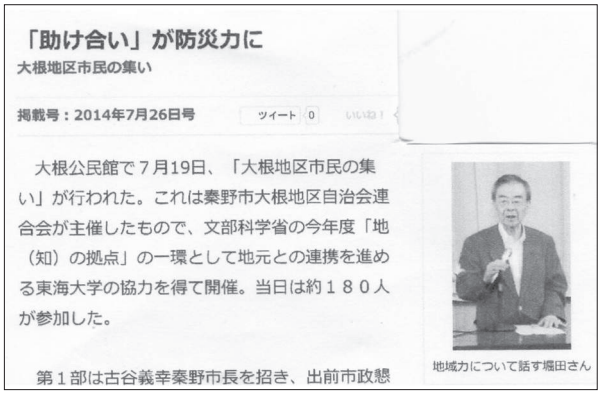
マチコミ紙「タウンニュース」に市政懇談会、意見交換会の開催結果を掲載してもらった。特に助かったのは総合防災訓練実施日の1週間前に「防災特集」を掲載していただき、市民に総合防災訓練の参加を呼び掛けていただけた。

タウンニュース

防災訓練参加増へ具体案

大根地区で意見交換

意見交換会記事


「助け合い」が防災力に

大根地区市民の集い

掲載号：2014年7月26日号

大根公民館で７月19日、「大根地区市民の集い」が行われた。これは秦野市大根地区自治会連合会が主催したもので、文部科学省の今年度「地（知）の拠点」の一環として地元との連携を進める東海大学の協力を得て開催。当日は約１８０人が参加した。

第１部は古谷義幸秦野市長を招き、出前市政懇

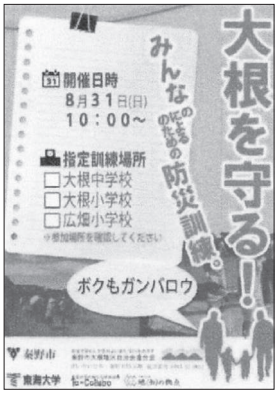
地域力について話す堀田さん

堀田力氏の講演記事

(3) ポスターと組回覧チラシの配布

市政懇談会や総合防災訓練開催の告知するポスターと組回覧チラシの作成は東海大学デザイン科の学生さんの授業の一環として受け持っていただけた。ポスターは公民館、学校、大学、金融機関、地元スーパー、美容・理容室、書店、不動産業者等に軒並み掲示し、地域市民に訓練参加を呼び掛けた。

市政懇談会



総合防災訓練

5. 総合防災訓練実施結果

5-1. 参加者数は2,326名の参加があった

中央会場となった大根中学校、大根小学校、広畑小学校には参加者は猛暑の中をのぼり旗を掲げ、続々と集まり主催者の予想を上回る2,326名（内、小・中学生374名参加）が参加した。今回の特徴は、自治会が地域総ぐるみ作戦で、自治会ごとに趣向を凝らし、多くの市民の参加を呼び掛けてもらった。

古谷前秦野市長は、「広島での災害を教訓に、市としても再発防止に取り組むが、市民の皆様も今回の訓練を生かしてほしい」と、筆者は自治連会長という立場で「多くの参加は大根の地域

力と絆の強さを証明した。『大根を守る。みんなで守る』を合言葉に、安全で、安心な、住みよいまちづくりを進めましょう」とあいさつした。市民の防災意識の高める機会となった。

5-2. 生徒たちも動いた

秦野高校生徒、大根中学校生と、大根・広畑小学校生徒が大活躍してくれた。

小学生の防災絵画、中学生の炊き出し・バケツリレーへの参加・後片づけ、高校生の参加者受付・防災クイズ手伝いなど活躍してもらった。

小学生による防災絵画

中学生が炊き出しに協力

高校生の参加者受付の手伝い

5-3. 防災訓練アンケート結果

自治会長等から徴集したアンケートでは次の通りであった。

(1) 訓練の効果に対する評価

「全員が効果あった」と回答があった。その内訳は市民の防災意識の向上28%、市民の連帯感27%、広域避難場所の確認24%、災害発生時避難訓練12%、一時避難場所の確認7%、その他5%であった。

(2) 今後の防災取り組みの課題と取り組み

自主防災組織の強化19%、要支援者対応19%、安否確認19%、避難誘導11%、市民の啓発活動10%、救出・救助9%、平時の安全点検6%、防災資材の購入5%、その他2%であった。

これらの課題に解決のために次年度から東海大学などと連携して「防災フォーラム」という形式で、意見交換会をベースに毎年開催されるようになった。

5-4. マニフェスト大賞最優秀賞の受賞

今回の活動は「第9回マニフェスト大賞」(主催：マニフェスト大賞実行委員会、共催：早稲田大学マニフェスト研究所、毎日新聞社)に応募したところ、予想外に「最優秀復興支援・防災対策賞」を受賞できた。全国から2,223件の応募の中から最優秀賞7件に入ることができ、自治会連合会が選出されたのは全国で初めてとのことであった。活動の成果が全国ベースで高く評価され、大きな自信になった。翌年の賀詞交換会では、自治会長、市長、県議、市議の他に東海大学、秦野高校、大根中学校など諸団体関係者50名を招き受賞祝賀会を盛大に開催した。

喜びの声

最優秀復興支援・防災対策賞

神奈川県秦野市大根地区自治会連合会

「地域の防災力」高めて

秦野市大根地区自治会連合会のワークショップでは、防災訓練を成功させるためのアイデアを出し合った＝秦野市提供

神奈川県秦野市大根地区は小田急電鉄「東海大学前」駅周辺にある。学生が多く住み、活気がある一方で、単身共同住宅が多く、自治会加入率が43%台（2013年度）と低い。空き巣や窃盗事件も多かった。このため、23自治会で構成する大根地区自治会連合会は「安全で安心して住みよいまちづくり」を目指し、「地域で防災力の向上」をテーマに掲げる。

今年の市の総合防災訓練中央会場が大根地区だったことをきっかけに、昨年424人だった訓練参加者の目標を2000人にした。

毎日新聞掲載記事で、全国に発信された

◇「結果･考察」

1. 地域団体・市民の意見には地域の課題を解決できるヒントがある。

自治連だけで課題を解決しようとすると限界があったが、中学生と小学生の参加を得るためには今までは教育委員会経由で学校長への依頼で効果があまりなかった。今回は中学生や小学校長の提案で画期的な成果を上げることができた。

2. 地域大学や高校との連携で弱みを補完できる。

これらの学校が持つ学生・生徒、先生の知見、施設を活用することによって、自治連の弱みである大害災害時の救助などが強化する切っ掛けができた。また大学や高校は地域市民にとっては敷居が高かったが、徐々に往来ができるようになってきた。

3. 防災意識の向上を図るためには継続した取り組みが必要である。

寺田寅彦は「災害は忘れた頃にやってくる」と言っている。災害国日本では市民に常に防災意識を持ってもらうことが必要である。今回の取り組みが一過性のものであってはならないとの思いで、翌年度から「防災フォーラム」を開催した。第一部は東海大学・先生の防災に関する知見の発表、第二部は地域市民で行った意見交換会の発表を行った。タウンニュースや東海大学新聞、東海大学・先生からの発信は防災意識の向上に役立っている。

4. 防犯の課題解決にも役だった。

当地区の犯罪発生件数は秦野市の中でも多く、特に自転車の盗難件数が多いという悩みを抱えていた。発生件数が多い原因は東海大学があることからだとの指摘があったが、地域の課題として、意見交換会で解決することにした。メンバーに自治会長の他に各自治会に所属する防犯担当者、東海大学生、秦野高校生に、秦野市くらし安全課職員、秦野警察署職員など総勢34名の参加を得て、「自転車盗難を如何に防止するか」と題し、東海大学の先生の進行で意見交換会を開催した。各班から解決策案として、①自転車から放れるときは施錠する、②自転車防犯登録をする、③ネームシールを貼るなどの発表があった。

参加した秦野市の職員は、「市民が自主的に考え、行動しようという姿勢に感心した」、学生や生徒さんから「地域の課題について考えるとても良い機会となった」。大学生や高校生から「施錠が大切」との意見が出され、自転車施錠を告知するポスターとチラシを作成することになった。東海大学の学生さんに作成をお願いした。出来上がったポスターは防災訓練ポスターを掲示した同じ場所に、そしてチラシは自治会組回覧で告知した。また施錠の指導は、秦野市自転車商業組合にもお願いした。タウンニュースでも取り上げていただいた。

その結果、大根地区自転車盗難発生件数は28年度57件となり、初めて前年より▲16件減少（減少率▲34.5%）できた。市民の力の凄さを感じた。

意見交換会

検討結果の発表

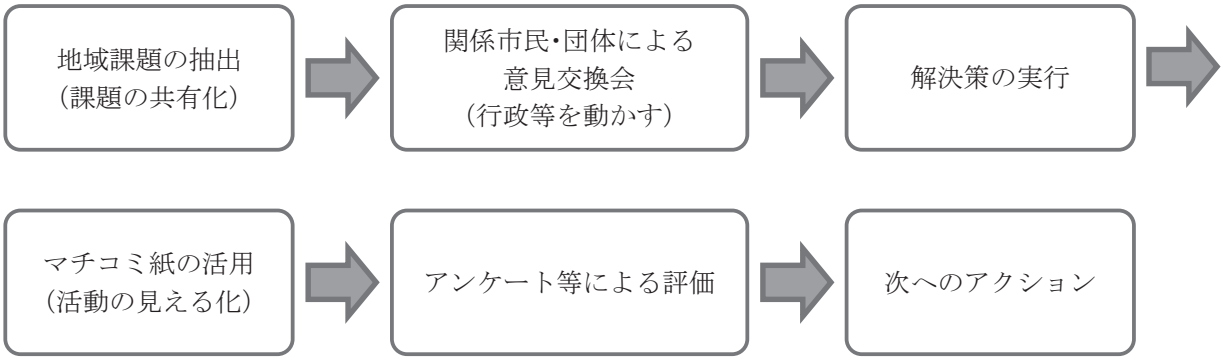
自転車施錠PRポスター

◇「結論」

1. ビジネス手法は地域課題の解決に役立つ。

地域関係者の参加による意見交換会は参加者が当事者意識が高まり、課題の解決に対する意見や提案を積極的な発言があり、予想以上の成果を上げることができた。またマチコミ紙などを活用することによって、市民への告知が図れた。地域の課題モデルは下記の通りとなる。経営士の持っているビジネス手法は地域の活性化に役立つので、是非取り組んでいただきたい。

課題解決モデル



2. 東海大学との連携による効果

東海大学の授業に「地域デザイン科」が誕生し、大根自治連として協力している。

また筆者と東海大学先生と連携して、「BCP（事業継続計画）作成支援セミナー」が川崎商工会議所や秦野商工会議所などでの開催が進んでおり、（一社）日本経営士会の知名度向上に役立っている。

◇「謝辞」

今回の研究論文は、大根地区自治会連合会各自治会長、秦野市企画課・防災課、大根地区諸団体、東海大学先生、秦野高校校長・生徒、大根中学校長・生徒、大根小学校・広畑小学校校長・生徒、タウンニュース社などの関係者皆様の多大なご理解とご協力いただいたことにより執筆できたもので深く感謝申し上げます。地域課題の解決に意見交換会が役立つことを願っている。

［参考文献］

1）『会議を劇的に変えるワークショップ入門テキスト』西村克己著　中経出版（2004年）

2）『ワークショップ』中野民夫著　岩波書店（2001年）

3）『ふるさとを元気にする仕事』山崎亮著　筑摩書房（2015年）

第52回経営士会全国研究会議 仙台大会で表彰されました最優秀論文、優秀論文、入賞論文につきましては日本経営士会のホームページでもご覧いただけます。

ビジネス・イノベーション・アワード2018

「ビジネス・イノベーション・アワード2018」の表彰式は経営士全国研究会議全仙台大会にて開催され、9社が受賞しました。表彰式では9社の代表者が出席され、青木会長より表彰状とトロフィーが授与されました。

≪受賞企業の紹介　※順不同≫

［会　長　賞］　株式会社山形屋商店

創業110年の老舗味噌・醤油製造販売店。先の震災で全壊したが、同業者からの委託生産の話が舞い込み3か月後には営業再開。これまで連携の無かった事業者同士で復興センターを設立。老舗業者がコラボした新商品や全国の展示会への出店、また最近では「ハラル」食品の研究にも着手し、新しい試みを積極的に展開し、着実な歩みを進めている。

（宮城県石巻市　代表取締役　山形政大様）

［ソーシャルビジネス奨励賞］　株式会社アップルファーム

「障がい者を納税者にし、やり甲斐と生き甲斐の創造」の経営理念のもとビュッフェレストラン「六丁目農園」等を経営。「六丁目農園」の特徴は「障がい者の戦力化」「規格外野菜の活用」「居ぬき物件の活用」で福祉支援と民間的収益性のバランスを取り、障がい者への賃金も全国平均を大幅に上回っている。また、このモデルを全国に普及するためアドバイザーとして活動している。

（宮城県仙台市　代表取締役　渡部哲也様）

［地域貢献奨励賞］　株式会社大風印刷

創業以来地域密着型の営業を一貫して行い、いち早くISMS認証を取得。顧客情報だけでなく、印刷物の情報も管理している。女性の活躍推進、子育て支援も積極的で、山形県の「ダイヤモンド企業」として認定されている。またフリーマガジン「gatta!」を13年に亘って発行。地元では「わが街の再発見」のきっかけとなり、観光客にはディープな観光情報満載の雑誌として高い評価を受けている。

（山形県山形市　代表取締役　大風　亨様）

［経営革新奨励賞］　甲信食糧株式会社

食材卸業として創業。給食食材を主軸に業容拡大。社訓に「創造と挑戦」を掲げ、地元の食材を利用した新商品の開発、大学との協同研究による新農法への挑戦、地中熱を利用した物流センターの実践。また、CSR活動として東日本大震災での支援、カンボジアへの小学校建設の支援等を積極的に行い、経営革新を第一に絶え間ない努力をする地域モデル企業を目指している。

（山梨県中央市　代表取締役社長　中込武文様）

［歯科医療業界働き方改革賞］　株式会社デンタルタイアップ

競争環境にある歯科医療に「違った発想を持つことで、今まで以上の質の高い医療サービスの提供ができるのではないだろうか」と考え、歯科医療業界にこれまでなかったマネジメント思考を導入し、最良のサービス提供をチームで実践するための意識改革に着手した。フォーラム、出版等を精力的に行い、歯科医療業界に特化したコンサルタントは大いに発展が期待される。

（広島県広島市　代表取締役　小原啓子様）

［働き方改革奨励賞］　株式会社名晃

「循環」を意識した「廃棄物管理」を目標とし、「持続可能」な「継続的改善」に取り組む。社員と共に人格の向上を目指し、その一環として始めた「活力朝礼」「掃除道」は社員の人間力強化につながり、業績も3期連続増益増収となる。地域社会、取引先にも率先して掃除を始めると、仕事の範囲も増え社員も自信がみなぎり成長を続けている。本年度「掃除大賞文部科学大臣賞」受賞。

（岐阜県安八郡　代表取締役　峠テル子様）

［環境CSR奨励賞］　プリンス電機株式会社

製品・活動・企業の3つの視点から「スリムエコ宣言」をして、社会の共有課題と企業の価値向上を目指す。製品に関してはスリムエコLEDを普及することで出荷本数は45倍になり経営改善に貢献。また環境教育を広めるため大学・NPO・商工会議所等で「スリムエコ講座」を実施、地域貢献に取り組む。環境活動は企業価値を高め、市場での優位性・求人等経営にも寄与している。

（神奈川県横浜市　代表取締役社長　寺嶋之朗様）

［技術開発奨励賞］　株式会社富士精工

「産業向け温度センサ」の製造を主軸に事業展開。半導体業界のスーパーサイクルと連動しセンサ需要を睨み地域の雇用を促進。またベンチャー企業で立ち上げ開発した世界初の羽根を使わない遠心式撹拌体「C-MIX」は、あらゆる撹拌分野の課題を解決した画期的商品となり、多くの賞を受賞した。あくなき技術開発を推し進め、社会貢献に寄与している。

（埼玉県ふじみ野市　代表取締役社長　下司英人様）

［ニュースタイル・ビジネス奨励賞］　株式会社Mogee

自動車解体、中古車販売業を経営。スリランカ出身の従業員を雇用したことで、海外資本の流入にはハードルが高いスリランカで、フランチャイズ的な手法を取り進出に成功する。国内では小ぶりな解体業店舗、中古車販売をセットにして首都圏を足掛かりに全国進出を計画。大型店舗の多い業界でスピードを駆使した新しい事業展開を行っている。

（宮城県亘理郡　代表取締役　茂木　宏様）

理事会通信

平成30年度第3回定例理事会

●日　時：平成30年9月13日（木）　10：00 ～ 11：15
●会　場：薬業年金会館　東京都中央区日本橋小舟町13-7

≪審議事項≫

第1号議案：経営士承認について

資格審査委員会より提出された資料に基づき審議の結果、13名全員が経営士に承認された。

第2号議案：全国研会員表彰承認について

全国研での会員表彰について、推薦書に基づき審議した結果、推薦書に不備があった1名の修正を条件に全員が承認された。

第3号議案：委員会組織一部変更について

前回の理事会にて委員会組織は承認されたが、MPP委員会とMPP普及活動推進グループを分ける必要性がないとの意見が出され、審議の結果、MPP委員会とMPP普及活動推進グループを一本化知ることが承認された。

第4号議案：来年度、再来年度全国研開催地について

来年度の全国研は近畿支部主管（京都）で開催することが承認された。また、再来年の開催は北関東支部主管（新潟）で開催することが承認された。尚、新潟開催は理事支部長会で最終確認を取ることとなった。

第5号議案：資金繰りについて

今年度後半の資金繰りの説明があり、年度初めに積み立てた定期預金のうち9月に300万円、2月に200万円の資金移動することが承認された。年度末残高は約130万円程度の予測を立てたが、微妙な金額なので、今後は各事業を見直しながら実施することが確認された。

第6号議案：交通費について

JRの基本的運賃を基準にすることが再確認された。また、委員会等も効率よく開催することとした。

第7号議案：広報委員会からの提案（外部用HPの作成について）

HP作成の見積もり、補助金申請用の書類が提出され、入会促進用のHPの作成したい旨の提案があり承認された。

≪報告事項≫

①　全国研進捗状況について

全国研仙台大会の進捗状況が報告され、各役員、支部長が参加者勧誘の積極的に行うことが確認された。

②　産業能率大学通信教育学部との連携について

産業能率大学通信教育学部の4年次に経営士補が取得できるカリキュラムを提案する報告があった。

③　生産性向上支援訓練進捗状況

各支部の生産性向上支援訓練の進捗状況の説明があり、登録していない6支部にも早急に申請するよう促すこととした。

④　環境CSR事業部長からの提案

「CSR経営士」の商標登録をする旨の説明があり承認された。

以　上

セミナーのご案内

「会計＆戦略立案基礎講座」開催のご案内

【経営支援事業部】

経営支援事業部は、11月23日（金）に、経営改善計画や経営革新計画策定などを支援するために、会計や戦略立案に関する基礎知識の修得やリマインドしたい方を主対象としたセミナーを開催します。「最近キャッシュフロー計算書の作成支援を行っていないので、細かな点を忘れているかもしれない。」「市場環境分析というのは、どのように行えば良かったのだろう？」など、今更人に聞けない基礎知識をリマインドしたい方には、ぴったりの講座です。また本講座は「経営改善プロフェッショナル養成講座」の「基礎知識講座」に相当しますので、「今後経営改善や経営革新領域の支援を行っていきたいのだけれど、会計や戦略立案領域の基礎知識に少々自信がない。」と感じている方も、奮ってご参加ください。

■会計＆戦略立案基礎講座　（経営改善プロフェッショナル養成講座「基礎知識講座」）

◆主な学習内容（予定）

1. 会計

・中小企業の会計と財務諸表の見方

損益計算書、貸借対照表、販売費及び一般管理費内訳書、製造原価報告書含む

・キャッシュフロー計算書、変動損益計算書

キャッシュフロー計算書、変動損益計算書の見方　ほか

2. 事業分析と戦略立案

・戦略立案のフロー

企業理念、市場環境分析から戦略立案までの標準的なプロセス　ほか

・事業分析と戦略定石

PEST分析、3C分析、SWOT分析、ファイブフォース分析など

代表的な戦略定石　ほか

◆講　　師：豊田 賢治、木下 忠夫、川崎 隆夫

＊講師のプロフィール詳細は、日本経営士会HPをご参照ください。

◆開催日時：2018年11月23日（金）　＜1日＞　10：00 ～ 17：00

◆会　　場：すみだ産業会館　第3会議室　（東京都墨田区江東橋3-9-10　丸井9階）

◆定　　員：20名

◆参 加 費：10,000円（消費税込）

◆申込締切日：2018年11月9日（金）　＜先着順＞

◆お申込み：（一社）日本経営士会 本部事務局　竹下宛

TEL. 03-3239-0691　　FAX. 03-3239-1831

E-mail：office@keieishikai.com

セミナーのご案内

「経営改善プロフェッショナル養成講座」開催のご案内

【経営支援事業部】

借入金の返済負担等、財務上の問題を抱えていて、金融支援が必要な中小企業・小規模事業者の多くは、自ら経営改善計画等を策定することが難しい状況です。こうした中小企業・小規模事業者を対象として、中小企業経営力強化支援法に基づき認定された(一社)日本経営士会などの認定経営革新等支援機関が、中小企業・小規模事業者 の依頼を受けて経営改善計画の策定支援等を行うことにより、中小企業･小規模事業者の経営改善が、劇的に進展すると期待されています。そこで､このような社会の要請により一層応えるために､日本経営士会は｢経営改善計画策定支援｣のプロを短期間で育成することを目的として、下記講座を開催いたします。日本経営士会会員で下記講座を修了した方は､｢経営支援アドバイザー｣として登録することができますので、経営改善計画策定の支援等に関われる機会が拡がります。

■経営改善プロフェッショナル養成講座　(実践知識講座)

◆主な学習内容 (予定)：

・｢事業再生計画｣｢経営改善計画｣の事例紹介　・認定支援機関業務の位置づけ

・中小企業金融をめぐる現状認識　・経営課題の把握　・経営改善施策の策定

・計数計画の策定　・金融支援策の策定　・バンクミーティング

・経営改善計画策定支援事業の流れ　・中小企業再生支援協議会について　　ほか

◆受講メリット：

・経営改善計画の策定支援に必要な実践的な知識とノウハウを、短期間で習得できる。

・実践知識講座の修了者は､｢経営支援アドバイザー｣登録が可能となる。

◆講師(実践知識講座)：川又 義寛、藤原 義宏

＊講師のプロフィール詳細は、日本経営士会HPをご参照ください。

◆開催日時開催日時(2日間)：初日：　2018年11月24日(土)　10：00 ～ 17：30

2日目：2018年11月25日(日)　9：30 ～ 17：30

◆会　　場：すみだ産業会館　第3会議室　(東京都墨田区江東橋3-9-10　丸井9階)

◆定　　員：20名

◆受 講 料：【基礎知識講座＋実践知識講座セット】　40,000円（税込）

【実践知識講座のみ】　30,000円（税込）

◆申込締切日：2018年11月9日(金)　＜先着順＞

◆お申込み：(一社)日本経営士会 本部事務局　竹下宛

TEL. 03-3239-0691　FAX. 03-3239-1831

E-mail：office@keieishikai.com

委員会活動

環境CSR事業部報告

環境CSR事業部

環境CSR事業部報告①

東京商工会議所のホームページに「環境CSR事業部の活動」が掲載

（一社）日本経営士会　環境CSR事業部の活動が9月半ばに東京商工会議所のエコピープル支援事業のアクションレポートとして掲載されました。

東京商工会議所に掲載依頼した目的は（一社）日本経営士会の環境CSR事業部の活動を広く知ってもらい環境経営士の普及とコンパクトエコシステム（CES）、コンパクトCSRシステム（C.CSR）の中小企業への普及のためです。

アクションレポートは次のような内容です。

「中小企業にやさしい環境CSR経営の支援」には環境経営士になろう。の題名で以下の内容です。

1. （一社）日本経営士会と環境CSR事業部の紹介
2. eco検定とエコピープルになったきっかけ
3. エコピープル／エコユニットとしての活動
4. エコピープル／エコユニットとしての今後の活動計画
5. 社会へのメッセージ
6. eco検定受験者、学生へのメッセジ

注：エコピープル／エコユニットとはeco検定の合格者がエコピープルと呼ばれ、2人以上の活動をエコユニットと呼称しています。環境CSR事業部の活動はエコユニットとして掲載中です。又エコピープルの活動としても紹介されていますが、この中に中部支部の環境経営士の活動内容も紹介されています。

詳細は東京商工会議所のトップページ左下▶検定試験情報▶eco検定▶右側の下方▶エコピープル支援事業▶アクションレポート▶エコユニットの左下に日本経営士会のアクションレポートが掲載。

又は下記よりアクセスをお願いします。

https://www.kentei.org/eco/people/report/index.html

環境CSR事業部報告②

10月に環境経営士養成講座公式テキストが改定発行されました。

今回の改定は丁度1年ぶりの改定で主な改定は時代の趨勢から本の名称は「環境CSRと経営」から、「CSR環境と経営」へと変更しました。

本の内容は持続可能な開発目標（SDGs）を1節追加して時代の流れに沿うようにしています。（一社）日本経営士会のCSR環境経営のテキストですから経営・管理については詳細に記述してあります。又索引を追加して、使いやすい様にしてあります。

B5サイズで250ページのボリュームです。定価は税込みの3000円です。購入される場合は当会の事務局までお申込みをお願いします。

電話03-3239-0691又はメールoffice@Keieishikai.comまでお願いいたします。

（環境CSR事業部　福井 浩）

委員会活動

環境経営士の過去・現在・未来

環境CSR事業部

環境CSR事業部が出来た背景とこれからについての記述させて頂きます。

1. 環境経営士が出来た背景、(過去)

2008年に東京商工会議所(東商)がeco検定合格者(エコピープル)を対象にスキルアップ事業を企画しました。スキルアップ事業にはビジネス系、緑化系、食・農系、住環境系などでしたが、東商はビジネス系で当会にビジネスエコリーダー養成を依頼しました。(この事務処理もふくめて当会にゆだねられ、その後の環境経営士の事務も環境CSR事業部が担当しましたが最近になって本部事務に移管されました)約3年間で496人が修了しました。その後東商はこの事業を廃止しました。当会はビジネスエコリーダーより更に高度な環境経営士®を養成することになりました。

2. 環境経営士の養成と活躍の場は(現在)

(1)環境経営士の養成方法は

環境経営士養成講座はベーシックコース(BC)アドバンストコース(AC)で構成されています。BCを受講されてから、ACを受講していただきます。但し、エコ検定合格者など環境関係の資格保持者はBCを受講せず、ACを受講することができます。

AC受講後、所定の手続きを経て環境経営士として認定されます。

開催頻度は本部では奇数月に開催しています。支部では任意で開催しています。詳細は「環境経営士」で検索をお願い致します。

(2)フォーローアップ研修について

環境経営士になると2年間に1回はフォーローアップ研修(FU)を受講することになります。但しFUの日程が合わない、遠方等の場合はA4 1枚程度で「CSR環境経営」に関する論文とか活動報告を出すこととなっています。このことは(公社)全日本能率連盟(全能連)の登録する時に上記の事が記載されています。関東近辺以外の方は本部で主催するFUは費用的に困難なので各支部が自主的にFU実施をお願いしています。

(3)環境経営士の活躍の場

・企業内CSR環境活動の支援、例えばCSR環境教育、CSR環境事務局活動等
・中小企業にCSRの考えを理念への統合と具体的施策の支援
・中小企業へのコンパクトエコシステム(環境マネジメントシステム)の普及そしてコンパクトCSRシステムの普及等
・日本経営士会支部活動として経営士との連携

コンパクトCSRシステムのロゴ

(4)環境経営士に「環境CSRニュース」を発行

2年前から環境経営士に有用な情報を月3回は「環境CSRニュース」を発信しています。

3. これからの環境経営士はCSR、SDGsへと変革に沿って企業を支援(未来)

環境経営士育成の目的は日本の企業向けに従来の経営理念にCSR環境面を組み込んだ「CSR環境経営」を普及させることです。経営士の皆様でCSR環境面を1つのコンサルタントの柱として考えられる方は「環境経営士養成講座」受講をお勧めします。この講座は1年前に環境省、経済産業省等5省の環境人材育成の認定を受けている46団体の1つです。

(環境CSR事業部　福井 浩)

委員会活動

MPP委員会からのお知らせ

MPP委員会

新体制に引き継がれましたMPP委員会が、8/12本部会議室で行われました。担当理事、委員長他、担当委員にて事業計画づくりが行われました。

MPPは日本経営士会の大きな財産です。わかりやすく、広く公開され、気軽に数多くの方が参加できるよう原点確認と役割見直しを行っています。

（新体制づくりに奮闘中の会議の様子）

大きな変更点は「委員会」と「普及活動委員会」を一つにまとめ、会員向けと外部向けも含め以下のように役割を担当制としました。

- マニュアル整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・栗山、豊田、（助言・協力:顧問　塚本、平山、阿部）
- リーダーの管理（養成・更新研修含む）・・塚本、岩井、河上
- ケースの登録、管理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・栗山、一瀬（協力：土橋・田中）
- ポイント、報告書管理・・・・・・・・・・・・・・・・日野（協力：田中）
- 広報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・島影

★平成29年度更新、平成30年リーダー更新状況★

千葉・東京・埼玉、南関東（山梨）、北関東（新潟）は更新を終了しました。その他の支部に関しては、支部単位での計画に準じて速やかに開催されるように連絡しています。

リーダー資格のないものがリーダーを努めることはできませんのでご注意ください。

（東京・千葉・埼玉合同更新の様子）

★MPP及びMPPリーダー養成・更新研修の開催について★

支部・県会の情報はできるだけ本誌で掲載予定です。各支部担当委員からMPP委員会へのご連絡をお願い申しあげます

★10月以降のMPP開催予定案内★

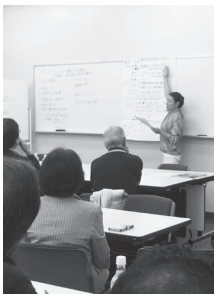
〈支部開催〉　・10/ 下～ 11 月　異業種 MPP（高松）　・11/3, 4（東北）
　　・12/1, 2　北関東（松本）　・12/8, 1/26（新潟）
〈定期開催〉　・東京・・・隔月開催　・茨城県経営支援センター・・・年 4 回
　　・山梨経営支援センター・・・春、秋開催　・新入会員、推薦入会者（本部・東京）

＊開催情報の詳細は、主催の各支部、本部HPにてご確認ください。

女性経営士の会NJK活動報告

「WOMAN MPP in 東京」報告

8/25(土)13：00～東京富士大学にて東京支部とのコラボで公開MPPが開催されました。各支部との連携で行われる6回目の公開MPPもお陰様で、直前まで申し込みが続き、結果35名の参加をいただきました。ケースはトライアルに書き下ろした「老舗女性店主の決断」です。女性リーダー4名と東京支部リーダーを入れて5チームの熱い討議が展開され、発表は全てを女性にこだわり、初参加、初発表の方もいましたがメンバー援助で、今後の活躍や入会が期待できる素晴らしいものとなっています。



（全員で集合写真撮影：希望者はお申し出ください。データ送付します）

最後はすでに来年コラボを希望されている新潟の支部長と今回の東京支部長との熱い握手で閉幕しました。

> MPPは、各支部主催で数多く開催されています。
> 参加希望者はお近くの支部、もしくはMPP委員にお問い合わせください。

これからのNJK

★東京ウイメンズプラザフォーラム　10/28(日)　14：30～17：00

東京都生活文化局の施設である「東京ウイメンズプラザ」(青山)で開催される年に1回のフォーラムです。27日28日の2日間男女平等参画社会に取り組む各団体の活動が一堂に集まります。

NJKのテーマは「多様化する働き方　～起業女子から学ぶエンカレッジ～」

ゲストを招き、経験談とNJKとのセッションで勇気づけを目的にしています。

参加は、男女に関係なくどなたでも参加いただけます。お早めにお申し込みください。

★連携機関として

今後、NJKは全国の女性会との連携を広く図る予定です。現在、山梨、茨城、四国と次々に経営士を含む異業種の女性活躍団体が誕生しています。

○NJKは男女の差なく、会員が活躍できる機会を増やすお手伝いをしています。

○NJKとコミュニケーションの輪を広げましょう。コラボ希望の支部随時募集中。

【お問合せ】TEL：090-1812-9812　島影(bzu03624@nifty.com)

生産研究会通信

第3回生産研究会の報告

本年4月に始動した生産研究会は、生産部会活動にご賛同いただきました経営士会員のご協力をいただき、第3回生産研究会を8月31日（金）午後6時30分～9時まで三鷹商工会館で開催しました。この生産研究会の実施内容についてご報告いたします。

1. 第3回生産研究会テーマ：

人手不足を乗り越える中小企業の生産性改革に向けた課題・取り組み事例の研究と議論

2. 報告内容：

2.1　中小企業の生産性向上に向けた課題・取り組み関連の最新情報　（発表：山本　忠会員）

①中小企業の生産性向上に向けた課題と施策

②中小企業のIT利活用の現状と課題

③中小ものづくり企業のIoT等活用状況、企業事例

④最新の関連情報（トピックス）

ア　欧州最大の家電見本市「IFA2018」8月29日ドイツ・ベルリン開幕情報

➡今回の見どころ・考える家電、・つながる技術、・家電の次はスマートさ

未来の家電を競う・高速大容量通信規格「5G」対応やデータ活用

イ　世界デジタルカンファレンス2018：7月25日　日経ホール開催

［Society5.0実現へ ～IoT、AIが生み出す新たな価値～］

・ロボット活用へ環境整備を推進

・5G時代へ新価値創造を目指す

・IoT、AIで変わる日本のものづくり

・デジタル化で変わる製造現場

ウ　製造業をはじめ、あらゆる産業の物流コストの低減が期待される。

「Logistics 4.0 時代の物流ソリューション」を考える。

2.2　IT利活用による労働生産性向上の取り組み事例　（発表：定野　淳会員）

中小製造業のIT導入と戦略について、指導・支援された茶業機械メーカーの「生産管理のIT導入の事例」について発表された。

①この中で大事なことは、IT導入が目的ではなく、企業の導入目的を明確にし、ITを利活用することで企業経営を実現することにあると協調された。

②多くの課題を抱える中小企業の生産性向上について、如何にIT導入をはかり改善を行うか、具体的な進め方や実施事例と難解なIT用語を分かりやすくご説明いた

だいた。特に「生産管理のIT導入を実施するポイント」はとても参考になりました。またIT導入ツールの紹介をいただき、ソフトウェア用語とツールを知り、学習を深めることが出来ました。

会員各位へのお願い：

企業経営や生産性改革等について、皆様のご意見・提案をお待ちしております。

生産研究会は、第4次産業革命が広がる中で、その中核となるデジタル技術の進展と・活用による産業界の現況と取り組みについて、調査・研究を行っています。特に製造業では大きな変革の波を受け、経営管理や生産技術・製造の面でも厳しい対応を迫られています。このような状況下において、中小企業は今後どのように対応すべきか、皆さまが考えておられるご意見・疑問・提案等をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

・AI、IoT、ロボットなどの経営、生産への利活用について
・人手不足を乗り越えるための生産性改革について
・経営士としての指導・支援のあり方と対応について・・・・・など

生産研究会としては、皆様からお寄せいただいたご意見などを基に情報交流をはじめ、会報誌上を通じて相互に研鑽させていただきたいと存じます。

投稿先

お寄せいただく原稿は、A4サイズで原則1,000文字以内とさせていただきます。投稿先は以下の通りです。

〒102-0084　東京都千代田区二番町12-12 B.D.A.二番町ビル5F
一般社団法人日本経営士会事務局宛
「気付先：生産部会　平山道雄、山本忠宛」
メールアドレス：tanaka@keieishikai.com
または山本忠宛：yama-chu19-fukuei @swan.ocn.ne.jp

追記：第4回生産研究会は、11月2日（金）午後6時より三鷹商工会館で開催致します。どうぞご参加ください！

（生産研究会　山本 忠記）

寄稿

武術と健康に関する話　（第9回）

平　直行

■ 呼吸は大切な栄養

2回に亘って紹介した肩を楽にする運動の効果はいかがでしたか？人の体は本来何の問題もなく一生を健康で良く動くように産まれて来ます。産まれた場所で何の過不足も無く一生を過ごせるのが本来の生命の持つ力です。人以外の地球に暮らす生命はその恩恵を受けて一生を健康に過ごします。地球の恩恵を充分に享受する為の条件はたった一つです。産まれた場所で暮らす、たったそれだけです。地球に暮らす全ての生命は、人の手の加わらない本来の地球に最適な形で産まれ一生を過ごすのです。たったそれだけのことを拒否して暮らす生命は人しかいません。だから人だけ体に関する悩みが生じてしまう訳です。

人は健康の為に様々な運動を行い、様々な健康法も考え出します。その割に人は地球に暮らす生命の中で最低ランクの健康しか手に出来ません。人が考えた運動や健康法には必ず不足部分が生じます。たった一つある健康法は人の手の入らない地球で暮らすことです。そのままの地球で暮らせば運動は必要なくなります。野性動物がそうであるように人も健康で良く動く体を持って一生を快適に過ごすことが出来る。ただしそれは現実的ではない。だから人は運動や健康法を考え出します。

どれも体に良いのですが、人の考えでは地球を作り出すことは出来ないので、それと同じように地球に暮らす自分たちの体に関しても実は大した知識は持ってはいないのです。本当に体のことを理解していれば地球に存在する物質の集りで出来ている人の体を地球の物質を集めて作り出せる筈です。人は命ある人を作り出す程の知識は持っていません。そして人は知識を持たないでも命を産み出すことが出来るのです。地球に存在する物質の集合体が人の体です。母胎でお母さんから全てを頂き成長した命は、産まれたら人はお母さんの体からではなく自分の口から栄養を摂取して自分の命を維持し育みます。

この仕組みは21世紀でもほぼ未知の世界です。いったいどうして食べた物が体を再び同じ形にして維持しているのか？命を動かす力はどんな仕組みで食べた物から産み出されるのか？実は何も解ってはいないのです。でもこれを食べたら体に良く元気になる等は古くから人々は知っていました。もしかしたらその程度で充分なのかもしれません。人を作り出すことなど別に考えなくとも、人は産まれてくるのですから。人が食べる物も自然が恵んでくれるのです。人工的に作る必要など全く必要ない。人工的な肉や米や野菜を無理に作り出す必要を僕はまったく感じない

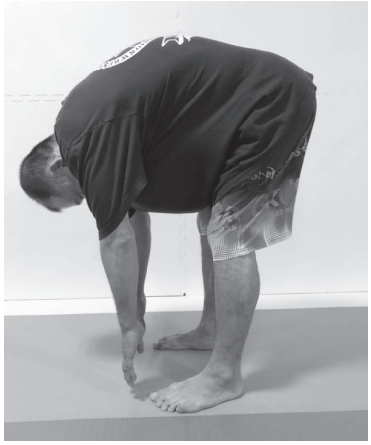
し、それが出来たとしても無理に食べたくはない。本来の食物を自然の恵みに感謝しながら食べたいです。本当は自然本来の食物を食べれば体に一番良く。自然が恵んでくれる大地と水と太陽に感謝して大切に向き合えばそれで充分なのでしょう。この簡単なことさえも実に難しくなってしまった現代。その原因は人が作り出した物です。人は実に賢く、そして同時に実に愚かな存在でもあるような気がします。

人は健康の為に食事に気をつけたりもします。人は値段が高いものに価値を感じます。食事をするにはお金が必要になります。食事は何日も食べないでも実は死なない。水の値段は食事に比べればとても安い(これは日本での話かもしれません)。水は数日で命に問題が出ます。空気は世界中でただです。空気は10分も吸わなければ確実に命を失います。いつもただで吸っている空気の栄養の取り方で体は変わります。大切な物ほど気が付かない大きな恩恵を頂いているのです。人の生命の維持そして体を動かすには呼吸はとても大切です。体を良くする運動をしながら呼吸法も加えることで運動の効果が更に高まります。

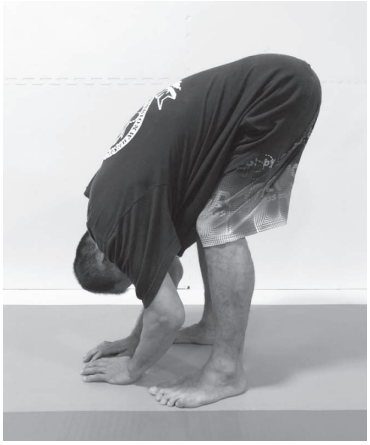
肩を良くしたら次は呼吸法で更に元気になりましょう。この呼吸法は凄く簡単です。ただ体を捻じって深呼吸するだけです。人が体を動かすには呼吸のエネルギーが必要になります。より沢山の呼吸によるエネルギーが必要になるのは、実は険しく変化に富んだ場所で体を動かす時になります。体を捻じりながら移動するような険しい場所では自然に呼吸が深くなります。体を捻じって(この時に指先まで捻じると効果が大きくなります)、大きく息を吸って無理しない位に止め、それを吐くだけです。左右交互に3回やります。

たったこれだけで体が良く動くようになります。体の奥から呼吸するには捻じれば良いのです。体の奥から動く体勢で深呼吸すれば勝手に呼吸は深くなります。始めに前屈してみてください。それから左右3回体を捻じって深呼吸します。たったこれだけで前屈は大きく向上します。前屈は見た目に分りやすい変化が出るので紹介しましたが、実際には体の総てに呼吸の質を高めた効果が出ると思っています。

左：深呼吸前



右：深呼吸後



人が考えた運動には必ず不足する部分が出て来ます。少しずつ色々な運動を、段階を経て行なうのが良いと思います。この考えにそって徐々に色々な運動を紹介してゆきます。肩を楽にしたら呼吸を良くして体に力を与えます。呼吸という大切な栄養を充分に摂取することで体は自然に良くなっていきます。次回は腰を楽にする運動を紹介します。

平直行先生が指導する「ストライプル」入会無料キャンペーンを11月末日まで行っております。
詳しくは、「ストライプル」で検索してください。

会員の輪
企業の経営力強化を目指す会計

辻　薫（近畿支部）

皆様、こんにちは近畿支部の辻薫と申します。私は2年前に28年間勤めた会計事務所を退職後、事務・記帳代行を中心に中小企業の経営者方々の悩み相談を業務としております。一般社団法人日本経営士会近畿支部には2017年6月に入会させて頂きましたが、まだ経営士業務については右も左も分かっていない状態です。

（中小企業会計普及セミナーの風景）

そんな中、会員の輪の推薦者である近畿支部幹事の正木会員より中小機構主催の『企業の経営力強化を目指す会計』セミナーの講師をお声掛け頂きました。

実務上、中小企業会計の活用法の種類・手段・メリット等について、頭の中では理解しておりましたが、セミナーの準備を進める中で、限られた時間内に受講者が理解出来る説明をする難しさを実感致しました。

初めてセミナーの講師を行いましたので不安いっぱいでしたが、2018年10月5日（金）関係者のお力添えを頂き、なんとかセミナーを終了させることが出来ました。私にとっても大変貴重な経験であり、またこの経験を今後の業務に生かしていきたいと思っております。今回はこのような機会を頂きましてありがとうございました。

次回は、私の入会に尽力いただきました中筋敏雄会員にお願い致します。

会員広場

【プロレスと経営】第十回

堺　剛

今回は、プロレス興行には欠かせない“テーマ曲”のお話をしたい。

テーマ曲を日本で最初に取り入れたのは国際プロレス。1974年9月15日ビリー・グラハムの入場時にジーザス・クライスト・スーパースターを掛けたのが最初である。彼のリングネームは同時代の有名なキリスト教伝道師から採用した。そんなこともあり、当時ヒットしていたミュージカル『ジーザス・クライスト・スーパースター』をテーマ曲にしたところに東京12チャンネル(現テレビ東京)のセンスを感じる。

日本で本格的にテーマ曲が根付いたのは、77年2月。全日本プロレスに来日のミル・マスカラスの入場時に『スカイ・ハイ』がかかったのである。この曲は空中殺法を売りにしていたマスカラスのイメージととてもマッチした。この曲がシングルカットされ大ヒットを生みプロレスにテーマ曲は欠かせないものとなった。およげたいやきくんの販売数が453.6万枚に対してスカイ・ハイが120万枚ということからどれだけ売れたかが想像できるだろう。テーマ曲に関してマスカラスは、「リングに向かうときリズムがあるなしでは気分が全く違う。」と語っていた。

一方の新日本プロレスは77年8月よりアントニオ猪木入場時に『アリ・ボンバイエ』の使用を開始した。この曲は、モハメド・アリよりアントニオ猪木にプレゼントされたと言われている。その後、同曲を元に『炎のファイター』が生まれた。ボンバイエとはザイールの現地語で殺せという意味である。ちなみに、小学生の頃の私は「猪木ガンバレ！」と聞こえていたことはここだけの話にしておこう。余談であるが、『炎のファイター』に歌詞を付け倍賞美津子(当時の猪木夫人)が歌った『いつも一緒に』は名曲である。

日本でテーマ曲が本格的に採用されるようになり、遅れてアメリカでもテーマ曲が使われるようになった。

テーマ曲に関しては、猪木やマスカラスのように生涯一曲で通す者と、定期的に変更する者とにわかれるようだ。私は、テーマ曲は安易に変更しない方が良いと思っている。なぜならテーマ曲は、そのレスラーのイメージであるからである。安易な社名やロゴ変更が良くないのと同じである。レスラーのイメージやキャラクターと合った楽曲を見つけ出したり作り出したりすることは大変なことであるが、そこは妥協してはならない。入場テーマ曲はイメージ作り。イメージ作りは、プロレスだけでなく経営全般においても必要不可欠なものであることは言うまでもない。
(続く)

堺　剛：
株式会社バーニングスピリッツ代表取締役。経営士(会員番号5384)、環境経営士(認定番号244)。全国理容生活衛生同業組合連合会、バンダイビジュアル株式会社において経理を幅広く体験。中小企業・外資系企業数社で経理係長～経営管理部長を務めたのち2017年4月株式会社バーニングスピリッツを設立した。①心温まるハートタイム経理部長サービス ②お菓子を用いた宣伝物の企画・製作 ③政策リサーチを利用した補助金・助成金・入札情報提供、等を行っている。
ホームページ：https://www.burningspirits2017.com/
電話番号：090-2733-0185　E-mail：tsakai@burningspirits2017.com

東北支部活動報告

東北支部

1. ブラッシュアップ研修を開催しました。

東北支部では、以下の通り仙台市にてブラッシュアップ研修を開催しました。

日時：2018年9月29日（土）　10時～12時

場所：深田会計マネジメンツ研修室

佐藤会員の「平成30年度　税制改正要点」では、税制の改正点等について日常の実務を盛り込んだ具体的な解説で、参加者全員大変参考になったと思います。

阿部会員の「通販大手Amazonへの出店と課題」では、実際に通販ビジネスをおこなっている阿部会員の、Amazonでの物品販売の現状と課題、拡販のコツ、等が詳しく解説され、普段なかなか聞けない内容のため非常に興味深かったです。

鏡会員の「事業再生の現状と再生手法」では、事業再生ビジネス実践者の鏡会員の金融機関の実情と本音、企業再生ではなく事業再生が重要、など生々しい体験をもとに解説いただき、参加者全員非常に参考になると同時に身の引き締まる思いだったでしょう。

（講義中の佐藤会員）

（講義中の阿部会員）

（講義中の鏡会員）

2. 第52回経営士全国研究会議・仙台大会　実行委員会開催しました。

10月6日（土）～7日（日）で開催される、第52回経営士全国研究会議・仙台大会の最終の実行委員会を開催しました。

当日のシナリオや各自の役割の最終確認を実施し、不手際の無いよう万全の準備を行いました。その後、会場である仙台サンプラザに訪問し、実際の会場の確認や仙台サンプラザとの様々なすり合わせを行い、いよいよ開催を待つばかりとなりました。

（実行委員会の様子）

3. 第3回環境経営士養成講座（仙台）のご案内

東北支部では、以下の通り仙台市にて環境経営士養成講座を開催します。

ベーシックコース

日時：11月18日（土）　9：30～16：30

場所：仙都会館　7階会議室

アドバンストコース

日時：12月15日（土）～16日（日）　9：30～16：30

場所：仙都会館　7階会議室

すでに経営士の方も、ぜひご参加ください。

（東北支部　表 伸也）

支部活動報告

「中小企業3Cの会」活動報告

千葉支部

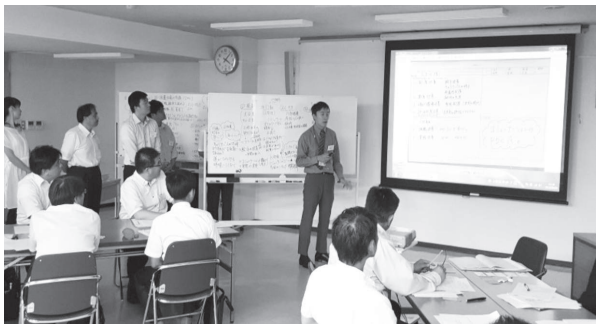
1. 千葉県経営者協会主催　「意思決定研修」開催

テーマ：ケースメソッドによる管理職・幹部社員のための「意思決定研修」

日　時：平成30年9月6日（木）13：00 ～ 17：00　　場所：千葉県経営者協会　　参加者：21名

事例企業は、業歴20年、社員数100名のソフトウエア業B社で、40代後半の契約社員の処遇、若手社員の副業、女性担当課長の出産を契機とした退職問題等、制度の整備が遅れている状況において、「働き方改革関連法」が施行される中、「働き方改革時代の現場力強化を考える」として、どのように制度を準備すべきか、また生産性を高めるための現場での取り組み案を設問としました。卸売、設備、機械製造、サービス業、学校教師等の多様な業種からの幹部社員を中心として、各グループで積極的な意見交換がなされ、検討報告が発表されました。鈴木会員から「働き方改革関連法」、「働き方・休み方改革への取り組み」等の要点をスライドにて解説し、知識理解も併せて研修会は終了しました。研修後のアンケートでは半数以上の参加者が経営士会からのセミナー情報等を希望されました。この研修は毎年経営士会千葉支部が受け持ち、時代に即した事例を毎回作り、関連知識を解説するなどの工夫があり、参加者からは大変好評をいただいています。

（鈴木会員の講評・解説の様子）



（グループ発表の様子）

2. 習志野商工会議所主催「経営力強化セミナー」開催

テーマ：「企業の経営力強化を目指す会計」（中小企業会計啓発・普及セミナー）

日　時：平成30年9月9日（日）15：10 ～ 17：10

場　所：習志野商工会議所　　参加者：18名

平成30年度「中小企業会計啓発・普及セミナー」基本編のカリキュラムに沿ったものです。内容は、中小会計要領を活用するとどのように企業にプラスになるか、財務会計の基本構造を知る、キャッシュフロー体質を創る、財務の構造を理解することでした。

受講生の多くは、創業塾の卒業生、創業予定者でした。皆さんしっかりノートを取り、質問もされ大変熱心に受講されていました。本講座「経営力強化セミナー」は、創業塾のフォローアップ研修という位置づけで構成されており、国の中小企業会計啓発・普及事業をうまく活用した事例です。引き続き、積極的に支援をしていきます。

（関口会員の講義の様子）

3Cの会」は、11月24日（土）、12月15日（土）、2019年1月26日（土）船橋中央公民館で午後3時～午後5時開催予定です。12月15日（土）は、終了後に忘年会を開催しますので、会員の皆様もご参加ください。

問い合わせ先等については、山田一　enshin@js4.so-net.ne.jp　まで

（金子 昌夫 記）

支部活動報告

2018年度第3回　茨城県会公開MPP　開催結果

北関東支部

当会会員の皆様、当会の宝であるMPPを大切にすることを期待します。

この結果報告については、批判的にお読みいただきたいが、批判に終始するのではなく、肯定できる点については、参考にしていただきたい。それがMPPの真髄と考えます。

「MPP」を商標登録して、他団体等から類似品（ソフト）出現を防止しており、私達が商標を大切にして、それの積極活用を図るのが責務と考えます。皆様如何お考えですか？

茨城県会では公開MPPを年間4回開催、MPPへの魅力付加のため、県外や賛助会員、次に会員外を招き、複数チームでの開催を心掛け、2018年度第3回公開MPPについては東京、千葉、埼玉支部を含み、計6名にご参加いただきありがとうございます。今回は、前記3支部会員のご協力、ご参加で無理して2チーム編成、少数会員の茨城県会、参加者に感謝です。従来の報告内容を変え、MPPに更なる魅力を付加したいと考えます。

MPPは、経営士能力開発講座→経営能力開発講座（士を削除）→MPP（商標を取得）と変遷した経緯があり、根底にあるのは思考力の養成、その内容は大～零細の企業研究であり、広く組織研究と言えます。皆様如何お考えですか？　皆様、再確認お願いします。

定期的にMPPを開催すると使用ケース探しに苦労します。ケース作成も心掛けており、今回はトライアルケース作成を目指し、MPPを実施したので概要を以下に示します。

1. 開催日：2018年9月15日（土）
　　13：30 ～ 17：00（事前の情報交換的説明等、終了後検討会　各15分間）
2. 参加者：2チーム、計6名（県内3名・県外3名）（うち県内1名は紙上参加）
3. 開催場所：ひたちなか市　ひたちなか商工会議所
4. 使用ケースコード：トライアルケース
5. ケーステーマ（題名）：60代夫婦のそば屋の再スタート計画
　（ケーステーマの今後の設定計画：ある地域飲食店の地道な経営戦略）
6. 終了後検討会：質疑応答を含み計15分間
7. ケース選定の理由：MPPを継続開催すると、採用ケース探しに苦労する。
　未選定ケース払底の状態であり、今回はトライアルケース作成を目指した。
　お世話係としては、過去と同一ケース採用は避けたいのが本心である。
8. チーム編成と会員外（今回は0）参加者について：
　1）各3名で2チーム編成、終了後検討会開催が大切、活発な意見交換できたと判断。
　　6名／チーム　では多過ぎ、4 ～ 5名／チーム　は活発な討議になる。
　　3名／チーム　でもMPPは開催可能である。他支部等でも試みて欲しい。
　　当県会ではリーダー体験者を増加、MPPの会員外への普及に寄与したい。
　2）今回は前年度内入会の紙上参加あり。丁寧で詳細な紙（書）面による参加者に感謝。
　　終了後、懇親の場を設け、情報交換や対話不足を補い、相互理解を深めている。
　　今回も地域密着型のビジネス、その他にも対話が及び、情報交換は有意義である。
　　次回等に開催の新ケース作成の練り上げができたと思えるのは収穫である。

3) 日刊工業新聞社　今回も遣り繰り不可だったが、茨城支局等にも働き掛けている。

9. 参加者の感想等：

1) ケース作成という挑戦的命題だが、適切なケースとして順次仕上げ可能と考える。
淀みのない状況説明や設問を明確にして、多数の参加者を得て討議可能なケースに仕上げたい。

2) 今回の要点は、新ケース作成のたたき台をどう精選するかを主体に討議した。
「そば屋」とあるが広範な「飲食店」に置き換えてケース作成を考えたい。
廃業ありきでなく再起してみたいという、店主の決意に沿うケース作成になろう。

3) このケースは、家業、生業と言える零細なビジネスで、検討範囲が狭い。
検討範囲が狭くなり勝ちだが、家族経営の小さな商売にも、相応の苦労や対応策が必要であり、真剣に対応したケース作成としたい。
経営者への確認や聴取を丁寧に行った様子が伺える。MPPの本質を追求したい。

4) 井勘定になりがちな家族経営を、どう組織だった経営にするかを考えるのも、相応に苦労が必要だろう。推測(配慮)の力を発揮できる事例に練り上げたい。

5) 労働力、営業力の確保、その他商売の基本事項も入れ込んだケースに仕上げたい。
的確に分析すれば、販促活動についてどこに力を入れればよいか等、検討もできるケースに仕上げたい。提供メニューの新提案も可能と考える。

6) 設問に関しては、マーケティング的な商圏の設定、井勘定からの脱却、財務管理の必要性とその詳細等や家族経営から通常取引への脱却方法等を問うのが適切か？
相応に広範に問うことができると推測する。適切な設問を設定したい。

7) 次回も新ケース作成の機運があり努力してみたい。各位のご協力に期待する。

8) 2チーム構成、3支部に及び、各支部の特徴が出てよかった。
MPPにも県民性的な要素があり、各県会に呼び掛けて、多くの参加者に集まってもらう工夫が必要と思う。参加者の多様性確保ということである。
リーダーの資質(基本的技量)の向上にも、参加者全員で取り組みたい。

★MPPは企業経営に役立つとの感触を得ており、敢えて従来同様を重複記載します。
参加会員の皆様のご理解、ご協力により、密度の濃いMPPになり感謝します。
よき伝統が今後も引き続くことを信じています。

(茨城県会　MPP　お世話係と写真提供　塚本 裕宥)

(MPPの様子)

近畿支部活動報告

近畿支部

◉2019年度　第53回経営士全国研究会議を近畿支部の担当に向けた活動

第53回経営士全国研究会議・京都
日時：2019年9月14日（土）～ 15日（日）
場所：京都タワーホテル（JR京都駅前）

近畿支部では、平成30年7月28日に臨時幹事会を開催し、来年度の第53回全国研を近畿支部が担当することを決定いたしました。実行委員会を設立し、8月10日臨時幹事会、8月31日の幹事会で検討し準備を進めています。

全国から古都京都・老舗企業の多い歴史ある京都に迎える準備と近畿支部からの参加など企画しています。皆様のお力添えを頂き是非、成功したいと思っています。

全国から、全国研・京都への多くの参加をお待ちしております。

◉平成30年度　中小企業会計啓発・普及セミナー開催

日時：10月5日（金）13:30 ～ 15:45
場所：大阪市生涯学習センター
講師：経営士　辻　薫先生

日本経営士会近畿支部は、独立行政法人中小企業基盤整備機構（中小機構）の平成30年度　中小企業会計啓発・普及セミナー『企業の経営力強化を目指す会計』を平成30年10月5日（金）13時30分～15時45分まで、大阪市生涯学習センター（大阪駅前第2ビル5階第3研修室（大阪市北区梅田1-2-2-500）で、講師は、経営士の辻薫氏で行い、25名（受講者21名）の参加で行いました。

正木亮介経営士からセミナーの主旨説明の後、辻薫経営士から、テキスト「企業の経営力強化を目指す会計」（独立行政法人中小企業基盤機構発行）と、参考資料「経営力向上」のヒント（中小企業庁発行）、「（経営力・資金調達力強化を目指す中小企業のための）中小会計要領の手引き」（中小企業庁発行）に基づいて講演を行いました。実務的な話も交えた内容は、実践に役立つと好評でした。

（中小企業会計セミナー啓発・普及セミナー）

◉各研究会の活動

経営顧問研究会

日　時　11月21日（水）18時～ 20時　日本経営士会近畿支部事務所

MPP研究会　日本経営士会近畿支部事務所

日　時　11月10日（土）13時～ 16時　日本経営士会近畿支部事務所
日　時　12月 8日（土）13時～ 16時　日本経営士会近畿支部事務所

支部活動報告

平成30年度四国支部総会及び意見交換会

四国支部

四国支部は、8月4日午後1時より高知市のオリエントホテル高知において総会及び意見交換会を行なった。7月初旬の大雨の後で高知道上り線が崩落した中の移動で、実際の現場横を通過した際には息を呑む光景が広がっていた。川西県会長との同行で、色々な発想や新しい企画なども提案できたり、移動中も有意義に過ごせた。

総会においては、ここ数年支部としてもかなり動きが出てきたので、活動報告や活動予定に関してはかなりボリュームが出ておりそこに加えて、先般来の収益事業として、ポリテクセンターの生産性向上支援訓練機関に認定され、香川県は実際動きがあったのと、高知県は間もなく認定が下りるという状況で(8月10日に認可)、今後も愛媛と徳島で取り組んでいきたい。愛媛と徳島は年度ごとの締め切りがあり、今年度は動きが取れない模様である。また、新たに女性経営士の会四国ということで新しい事業が立ち上がった。これについても収益事業となる側面もあるので、今年度はその準備期間となる見込みである。

先般の役員会でも話題に上がった会員増強についても、ここの所香川県中心の会員は増加したが、他県は思うように増加していないので、対策を検討したりした。

その他、全国研参加の呼びかけや今後の支部の方向性についても話し合った。やはり、世代交代が必要になってきているのと、IT化で予算や印刷費等を圧縮できるなどの意見もでた。特にIT化では本部でスカイプ(テレビ会議)などを本格的に取り入れるという意見も出たようで、四国支部も一部会員が活用しているが、四国支部全体で考えていければ例会など移動等で参加できない会員も見たり意見を述べたり出来るので、広く活用できるようになれば支部会員内の距離も一気に解消できるのではないかという意見も出た。会議や例会などの案内もほぼメールで行なえるようになったので、早期に実現したいと思う。また四国支部としてのホームページの改変に取り組んでいく旨の意見もあった。これは、従来のものは内向きのものであったが、今後は外へのアピールができるような内容にしていきたいとのことでした。SNS活用などは昨年も話題に出たが、引き続き活用していくことで参加者全員が一致した。

その他、本部の役員体制も変わったのでその報告をしたところ、数年前に比べてかなり風通しが良くなってきているので、経営士会そのものの過渡期で犠牲は出たが、より良い方向に向かっているし声が届くようになったと異口同音の意見であった。今後も本部同様支部も今以上に風通しを良くして情報交換を密にしていきたいということで閉会した。

(四国支部事務局)

(高知道高松方面車線崩落(2車線道路消滅))

(オリエントホテル高知にて)

支部活動報告

四国女性経営士の会ミーティング開催

四国支部

8月28日（火）午後2時より株式会社かのん会議室（山本カオル会員事務所）にて第2回女性経営士の会が開催されました。今回はフルメンバー 5名（松本美帆会員、山本カオル会員、岩井美津子会員以上香川、愛媛加藤会員、高知藤原潤子会員）と事務局岩井美喜夫がおまけ（高校野球のスコアラーみたいなもの）で開催しました。

今回は前回議題に挙がった創業5年以下の女性経営士や向けのセミナー開催に向けてのミーティングとなりました。主なところではこのセミナーのタイトルの決定や、内容について活発な意見が交換され、具体的に何回コースにするか、また各回のタイトル名など前回のマクロ的な議論からミクロ的な議論へと推移してきつつあります。ユニークな点では、四国女性経営士で作成する「マイビジネス・サクセスMAP」というものを作成して参加者に配布してはどうかという意見も出てきました。早速次回に取り組むべく調整中です。その他、失敗談や理念、事業計画、集客プラン、助成金や労務、起業から運営にかけの法律の話など様々な問題点や計画が挙がってきました。そして何よりもこのようなセミナーを行なう上での資金面や集客などについてどのような方面や団体、企業に働きかけたらいいかという点についても議論が交わされました。

事務局としては俯瞰的な位置からの参加でしたが、議事進行や活発な意見交換で座っているだけの人が居ない状態で、何かしらの有益な発言が飛び出して、今まで様々な会議やセミナーにも参加しましたが、手前味噌ながら四国支部女性会員は全国でも有数の精鋭会員だと感心して見ておりました。受動的に参加しているという雰囲気は無く、それぞれが一つの目的に向けて動いている様は、支部男性会員に引けをとらない、尚且つ女性会員ならではの細やかな意見交換となって予定されていた時間いっぱいがあっという間に経過するほどでした。

次回は今回までに出た議題をさらにステップアップすべく10月2日（火）午後より開催予定となっております。経営士会、特に四国支部の知名度を高める新しいモデルケースとなるべく頑張っております。

（四国支部　事務局）

（活発な意見交換がされました）

支部活動予定
平成30年度北関東支部MPPのご案内

北関東支部長　桑山 一宏
長野県会長　平岡　武

北関東支部では、毎年支部5県会の持ち回りで、1泊2日のMPP（2ケース）を開催しています。本年度は、下記の通り長野県会の主管で松本市にて実施いたします。ケースは、長野県会で作成したトライアルケースを使います。多くの皆様にご参加いただきますようご案内申し上げます。

記

平成30年度　北関東支部MPP

期　　日	平成30年12月1日（土）～ 12月2日（日）　※昼食後解散
会　　場	松本市 時計博物館　4階本町ホール会議室 長野県松本市中央1丁目21番15号　TEL 0263-36-0969
宿　　泊	プレミアホテル－CABIN－松本　（松本駅前・お城口正面） 長野県松本市深志1丁目2-31　TEL 0263-38-0123
参 加 費	14,000円　MPP参加費、宿泊代（朝食付き）、懇親会費（養老乃滝発祥の店）、2日目昼食
駐 車 場	ホテル提携の駐車場3ヶ所、会場直近に市営駐車場2ヶ所
スケジュール	12月1日（土）　13：30 ～　受付 14：00 ～ 17：00　MPP（トライアルケース1） 終了後移動・ホテルチェックイン 18：00 ～ 20：00　懇親会 12月2日（日）　9：00 ～ 14：00　MPP（トライアルケース2） 昼食後解散

お申し込みは、11月20日までに北関東支部長野県会平岡までメール又はFAXでお願いします。
メール：wbh@estate.ocn.ne.jp　FAX：0263-32-9064　※駐車場の地図が必要な方にはFAXします。

以上

支部活動予定

【北関東支部】（茨城県会）
＊北関東支部公開MPP（長野県会主管）
12月 1日（土）～2日（日）
（松本市時計博物館、CABIN泊、詳細は上記ご案内）
＊茨城県会月例研究会
（経営士の提言、MPPケース作成、その他）
12月15日（土）13：30 ～ 16：30
ひたちなか商工会議所
＊茨城県会月例研究会
（経営士の提言、MPPケース作成、その他）
1月19日（土）13：30 ～ 16：30
ひたちなか商工会議所
＊茨城県会月例研究会
2月 2日（土）13：30 ～ 16：30
ひたちなか商工会議所

【北関東支部】（新潟県会）
＊会員研修会　（柴田光榮会員）
11月19日（土）14：30 ～ 17：00
クロスパル新潟308
終了後懇親会を予定
＊会員研修会　（鈴木裕之会員）
12月 8日（土）14：30 ～ 17：00
クロスパル新潟予定
終了後忘年会を予定

【埼玉支部】
＊ビジネスモデル・キャンバス研究会
11月 2日（金）13：30 ～
武蔵浦和コミュニティセンター 第6集会室
12月10日（月）13：30 ～
武蔵浦和コミュニティセンター 第8集会室

【一木会】
11月2日（金）15：00 ～ 17：00
12月6日（木）15：00 ～ 17：00
（ホテル・グランドヒル市ヶ谷）

【TAMAマネジメント研究会】
11月24日（土）14：00 ～ 17：00
1月26日（土）14：00 ～ 17：00
2月23日（土）14：00 ～ 17：00
3月23日（土）14：00 ～ 17：00
（会場は毎回 三多摩労働会館）

【中部支部】
◎「メッセナゴヤ2018」日本経営士会出展
経営士会のPRと無料経営相談
11月 7日（水）～ 11月10日（土）10：00 ～ 17：00
ポートメッセナゴヤ
＊経営士補養成講座内容検討「環境」「情報」
11月25日（日）9：30 ～ 11：30
＊幹事会
11月25日（日）12：30 ～ 14：30
＊ICT研究会　中部支部HPの活用法
12月 3日（日）9：30 ～ 12：00
＊AC研究会　アイデア開発法「SH方式」
12月23日（日）9：30 ～ 12：00
（＊の会場はいずれも名古屋市芸術創造センター）

【近畿支部】
＊経営顧問研究会
11月10日（土）10：00 ～ 11：30
＊MPP研究会
11月10日（土）13：00 ～ 16：00
（会場はいずれも日本経営士会近畿支部事務所）

【四国支部】
＊四国支部大連ITツアー
11月 1日（木）～ 11月 4日（日）
＊定例会　11月16日（金）
＊賀詞交歓会　1月中旬

インフォメーション

PR

一般社団法人日本経営士会

花 上 一 雄

花上グループ『社外人事部®』
★社会保険労務士法人 閃 光 舎

併設団体 中小企業経営協力会
★人事情報システム株式会社
★オフィスサポート株式会社

TEL:045-360-5560　FAX:045-360-5561
■E-mail : hanaue@hanaue.co.jp
■URL : www.senkousha.or.jp
〒246-0023 横浜市瀬谷区阿久和東 2-5-13

株式会社バーニングスピリッツはバックオフィスのコンビニエンスストアです！

【弊社事業】

1. 週一回から貴社の経理部長をさせて頂きます。（心温まるハートタイム経理部長サービスをお届けします。）
2. 貴社の販売促進コンサルタントをさせて頂きます。お菓子を用いた宣伝物の企画・製作を行います。「年末年始のお菓子企画承ります！」
3. 貴社に必要な補助金・助成金・入札情報を入手できるツール　政策リサーチをご提供させて頂きます。弊社は政策リサーチの販売代理店です。

※「政策リサーチ」は一般社団法人日本みらい研と株式会社角川アスキー総合研究所の共同研究・開発商品です。

弊社のモットーは傾聴です。御社のお話をとことん熱く聞かせてください。

【お問合せ先】＊お気軽にどうぞ
株式会社バーニングスピリッツ
代表取締役 堺　剛（経営士5384、環境経営士244）
携帯電話：090-2733-0185
メール：tsakai@burningspirits2017.com

バーニングスピリッツ Burning Spirits!

PR

名刺広告大募集

名刺広告を募集しています！特に次回１・２月号では新春の名刺広告を大募集しております。
掲載ご希掲載ご希望の方の方は 12 月 10 日迄に事務局にご連絡下さい。価格は下記の通りです。
＊連続掲載の場合は２割引きになります。

種類	価格（会員）	価格（一般）
カラー１面	35,000	50,000
モノクロ１面	20,000	25,000
モノクロ半ページ	10,000	15,000
モノクロ名刺サイズ	5,000	7,500

訃　報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
会務に多大のご尽力をされました。

＊林 ゆかり会員
（南関東支部会員　NO.5229）
平成30年10月19日没（享年40歳）

＊横田 敏彦会員
（中部支部会員　NO.4208）
平成30年8月15日没（享年61歳）

新書紹介

書籍名：サービス・マーケティング　―理論と実践―
著　者：日野 隆生（会員番号2680）
定　価：1,800円（税別）
発行所：五絃舎
発行日：2018年9月30日

エグゼクティブクロッシングin小豆島　開催決定!!

◆開催概要

日　時／2019年1月26日（土）　12時～17時30分
場　所／香川県　小豆島
人　数／30名定員
参加費／6,000円程度
主　催／一般社団法人 日本経営士会 エグゼクティブ クロッシング
共　催／一般社団法人 日本経営士会 四国支部、四国女性経営士の会
協　力／小豆島ヘルシーランド株式会社

◆タイムテーブル

12：00　昼食・視察
14：00　小豆島ヘルシーランド社長 講演
15：00　課題グループ討議
17：00　コンサルティング案発表
17：30　解散

◆小豆島ヘルシーランド株式会社について

小豆島に本社を置く、オリーブ化粧品の通信販売が主軸の企業
ホームページ　https://www.healthyolive.com/

〈特徴〉

・代表取締役社長　40代の青年経営者
・小豆島でトップクラスの業績
・様々な新規取り組みを積極的に行なっている
・地域貢献を積極的に行なっている

◆視察（候補）

・会社訪問、オリーブ園、1000年樹、迷路のまち（食事を含む）、エンジェルロード

◆グループ討議

概要／６～８名のグループに分かれて、課題解決策を討議
グループ数／４～５グループの予定
参加構成／経営士＋企業側社員

（迷路のまち）

（樹齢1000年のオリーブ大樹）

Management Consultant

経営に知恵と革新 Intelligence and Innovation in Management